

飯田市美術博物館 2028 ビジョン・基本プラン



平成 29 年4月1日

飯田市美術博物館

目 次

はじめに	1
第1章 飯田市美術博物館 2028 ビジョン・基本プランの策定について	2
1. 策定の趣旨	
2. 飯田市美術博物館 2028 ビジョン・基本プランの位置づけと構成	
3. 計画の期間と進行管理	
4. 上郷考古博物館について	
第2章 飯田市美術博物館の歩み	4
1. 飯田市美術博物館の基本テーマと活動方針	
2. 飯田市美術博物館の概況と主な沿革	
3. 飯田市美術博物館を取り巻く状況の変化	
4. 飯田市美術博物館の活動の成果と評価	
第3章 飯田市美術博物館 2028 ビジョン	8
1. めざす姿	
2. 重点目標	
3. 学芸活動の取組方針	
4. 各部門のテーマ・活動方針と重点的な取組	
第4章 飯田市美術博物館 2028 基本プラン	19
1. 調査研究	
2. 資料の保存収集	
3. 展示公開	
4. 教育普及	
5. 学芸活動の体制	
6. 管理運営業務	
第5章 飯田市美術博物館 2028 基本プランの展開	26
1. 前中後各期の達成目標と重点的な取組	
2. 前期 4 年間(平成 29～32 年度)の主な取組と活動指標	
【参考資料】	28
1. 策定の経過	
2. パブリックコメントについて	
3. 協議会・評議員会からの意見とその対応について	
飯田市美術博物館のめざすもの<平成 19 年(2007)策定>	

はじめに

博物館や美術館の目的は、「歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすること(博物館法第2条)」です。

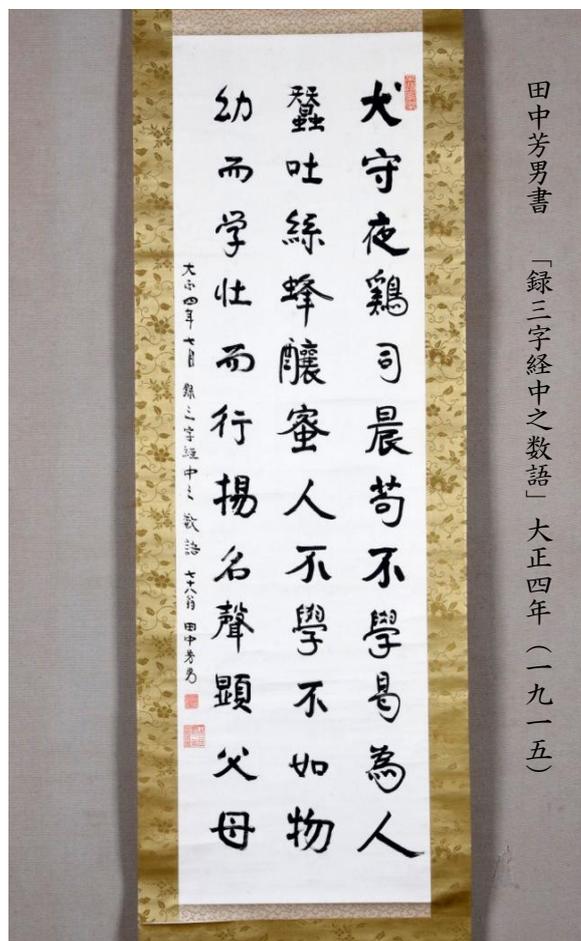
わが国の博物館の始まりは、明治5年(1872)に、東京の湯島聖堂に開設された文部省博物館とされています。この博物館を実現した人物こそ、飯田出身の田中芳男です。博物学(本草学)と医学を学んだ田中芳男は、パリとウィーンで開催された万国博覧会に日本代表団の一員として参加し、その感動を胸に秘め、様々な文物の有用性を調査し、展示公開するとともに、わかりやすい図譜などを作成して広く知識や技術の普及に努めました。さらに、明治政府の官僚として全国各地を訪れ、主に農林漁業の発展のために実践的な指導も行き、殖産興業を通じてわが国の近代化に貢献しました。彼は、人々や社会が豊かになるために、博物学の成果を生かす実践を行ったのです。

田中芳男の思想と行動の背景には、幼い頃に父から学んだ「三字経」の教えがあるようです。彼は晩年、「録三字経中之数語」という書を揮毫しています。その内容をごく簡単に意識すれば、「生き物には世の中で果たす役割がある。人の役割はよく学んで、豊かな未来をつくることである。」というものです。また、彼は、身近にいた優れた先輩達からも多くのことを教えられ、手ほどきを受けたりして、学びの楽しさ、厳しさ、必要性を身につけました。

田中芳男の思想や行動から、彼が博物館に込めた思いを酌み取るとすれば、博物館の使命は、「事物をして雄弁に語りしめ(事物が持っている情報をいろいろな視点、角度から伝えるために、調査研究・資料の収集保存・展示公開・教育普及といった事業(以下「学芸活動」という。)を行い、学術文化の発展に寄与し、もって人々の生活文化を豊かにして、未来の社会の創造に寄与すること」と言えるでしょう。

平成28年(2016)、飯田市美術博物館(以下「当館」という。)は、田中芳男没後百年記念特別展「日本の近代化に挑んだ人びとー田中芳男と南信州の偉人たちー」を開催し、菱田春草や柳田國男、日夏耿之介ら40人余りの当地出身者の人物、業績などを紹介しました。彼らは、驚くほど多彩な分野で日本の近代化に貢献していますが、互いにつながりがあります。

日本の博物館の父と言われる、田中芳男の出身地にある当館は、こうした人々を輩出した地域性(飯田らしさ)を、当館の基本テーマである「伊那谷の自然と文化²⁾」・「自然と人間とのフュージョン(融合)」という視点から明らかにし、地域の未来の創造に少しでも寄与していく使命を有しています。



¹ 録三字経中之数語(読み下し)「三字経」とは、中国の古典的な漢字の教科書のようなものである。
犬守夜 鶏司晨(犬は夜を守り 鶏はあしたを司る) 苟不学 曷為人(いやしくも学ばずんば なんぞ人と為さん)
蚕吐糸 蜂釀蜜(蚕さんは糸を吐き 蜂は蜜を釀す) 人不学 不如物(人学ばずんば 物にしかず)
幼而学 壮而行(幼にして学び 壮にして行) 揚名声 顯父母(名声をあげ 父母をあらわし)

² 「伊那谷の自然と文化」という言葉は、昭和53(1978)年度に発刊された定住圏構想推進事業の「飯伊地域における文化の振興に関する調査報告書」の表題として用いられ、同時期に策定作業が進められた飯田市美術博物館の開館に向けた基本構想にも引き継がれた。また、飯田市教育委員会は、平成25年度に「伊那谷の自然と文化をテーマにした飯田市教育委員会における取組方針」を策定し、「伊那谷の自然と文化は、独自で、多様で、それぞれが奥深い特徴を有し、市民のふるさと意識の源であり、飯田の魅力をつづくる基盤となっている」という基本認識を示している。なお、ここでの「伊那谷」は、概ね天竜川流域の木曾山脈と赤石山脈に挟まれた一帯(伊那盆地)を指している。本書で当地域という場合は、概ね飯田下伊那を想定している。

第1章 飯田市美術博物館 2028 ビジョン・基本プランの策定について

1. 策定の趣旨

飯田市は今、人口減少、少子高齢化、財政の縮小、経済の停滞といった大きな課題への対応とともに、平成 39 年(2027)に開業するリニア中央新幹線や三遠南信自動車道の開通を生かすまちづくりを進めることが求められています。そこで、飯田市は、リニア中央新幹線がもたらす大交流時代において、私たちの暮らす地域が超大都市圏の中で埋没することなく、持続可能なまちづくりを進め、魅力を高めていくために、「いいだ未来デザイン 2028 (飯田市総合計画・計画期間:平成 29 年度から平成 40 年度までの 12 年間)」を策定しました。また、これを受けて、飯田市教育委員会も同期間の「第 2 次飯田教育振興基本計画」を策定しました。

これらの計画において、「伊那谷の自然と文化」がもつ独自性、多様性、奥深さは、ふるさとを愛する心と飯田の魅力を生み形づくっていく源として認識されています。また、「守るべきものと備えるべきもの」を学び考え、まちづくりに生かしていくことも重要な取組として位置づけられています。

「伊那谷の自然と文化」・「自然と人間のフュージョン(融合)」を基本テーマとして活動している当館は、こうしたことを踏まえて、まちづくりや多様化する学びの欲求に応えていくことが期待されています。平成 30 年に開館 30 周年を迎える当館が、その期待に応え、リニア時代において、博物館としての使命を果たしていくためには、明確な方向性を持ち、計画的な取組を進めて、まちづくりに寄与していくことが必要です。そこで、当館の今後のあり方や事業活動における基本的な方向を示すビジョンとそれを達成するための取組を示す基本プランとを策定します。

2. 飯田市美術博物館 2028 ビジョン・基本プランの位置づけと構成

「飯田市美術博物館 2028 ビジョン・基本プラン(以下「本計画」という)」は、「いいだ未来デザイン 2028」と、その教育分野の計画でもある「第 2 次飯田教育振興基本計画」とを上位計画とし、後者の社会教育機関別計画として位置づけられるものです。

本計画は、当館のめざす姿(今後のあり方)と、その実現に向けた学芸活動の基本方針および重点目標を示す「2028 ビジョン」と、それを達成するための取組を示すアクションプログラムとしての「2028 基本プラン」とで構成します。なお、「2028 基本プラン」は、時代の変化や、制度の改正などに対応するため、本計画の期間を前・中・後期の3期に分け、各期を迎えるごとに具体的な取組(ロードマップ)を定めることとします。

3. 計画の期間と進行管理

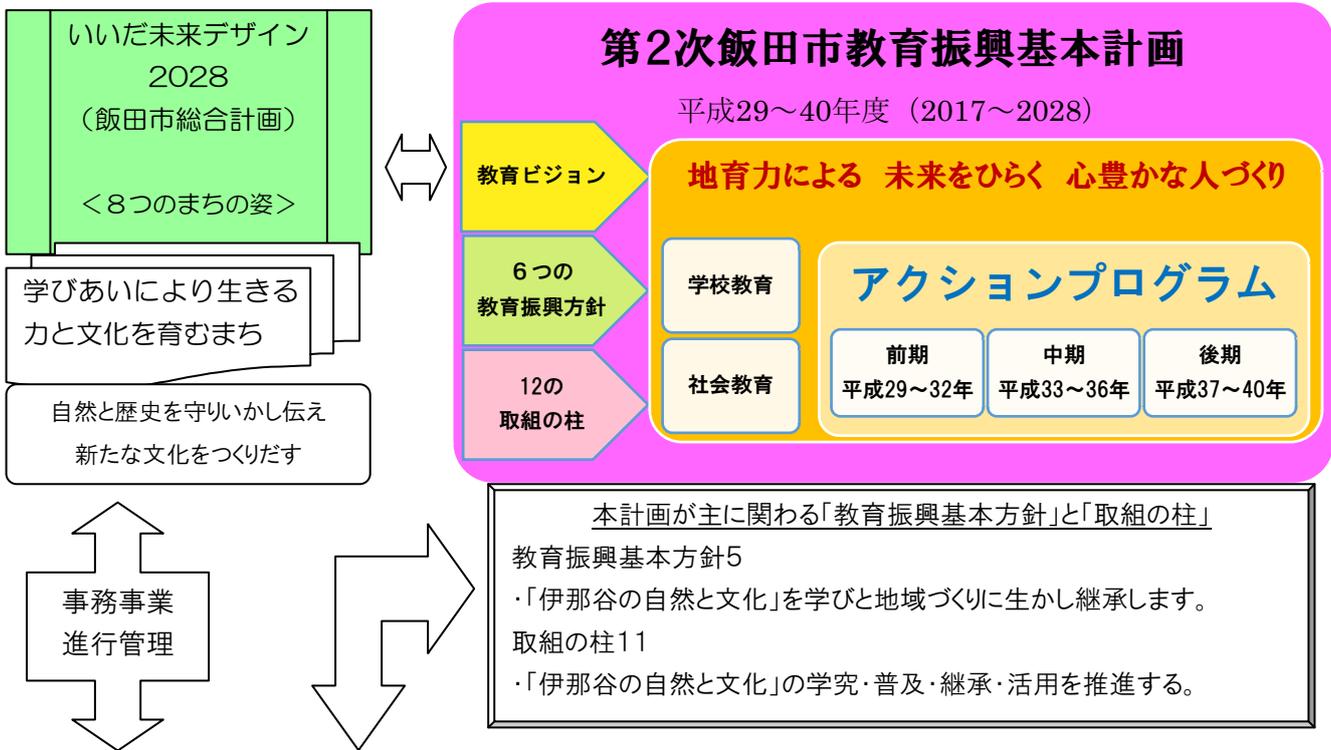
本計画の期間は、上位計画の期間と合わせて、平成 29 年度(2017)から平成 40 年度(2028)までの 12 年間とし、必要に応じて見直しを行います。また、進行管理は、上位計画と活動指標を共有し、毎年の PDCA 方式による行政評価により行います。

4. 上郷考古博物館について

当館が所管している上郷考古博物館は、平成 26(2014)年度に策定した「飯田市公共施設マネジメント基本方針」のなかで、生涯学習・スポーツ課が所管する飯田市考古資料館との統廃合について、優先的に検討する施設として位置づけられました。平成 31 年度(2019)までに方針を定めるように検討を進めます。

このことを踏まえ、生涯学習・スポーツ課等との連携に配慮しながら、現状をベースに運営することとします。

＜上位計画と飯田市美術博物館 2028 ビジョン・基本プランとの関係等＞



飯田市美術博物館 2028 ビジョン・基本プラン															
計画期間:平成 29(2017)年～平成 40(2028)年															
計画の構成	2028 ビジョン					2028 基本プラン									
対象部門 活動分野	自然	人文	美術	プラネタ リウム	考古 博物館	自然	人文	美術	プラネタ リウム	考古 博物館					
調査研究	めざす姿(今後のあり方)					12年間のアクションプログラム									
資料収集保存															
展示公開															
教育普及											めざす姿の実現のための重点目標				
活動体制											学芸活動および部門別の取組方針				
管理運営															
他との連携											3期に分けたロードマップ				
	前期:平成 29～32 年度(2017～2020)														
	中期:平成 33～36 年度(2021～2024)														
	後期:平成 37～40 年度(2025～2028)														

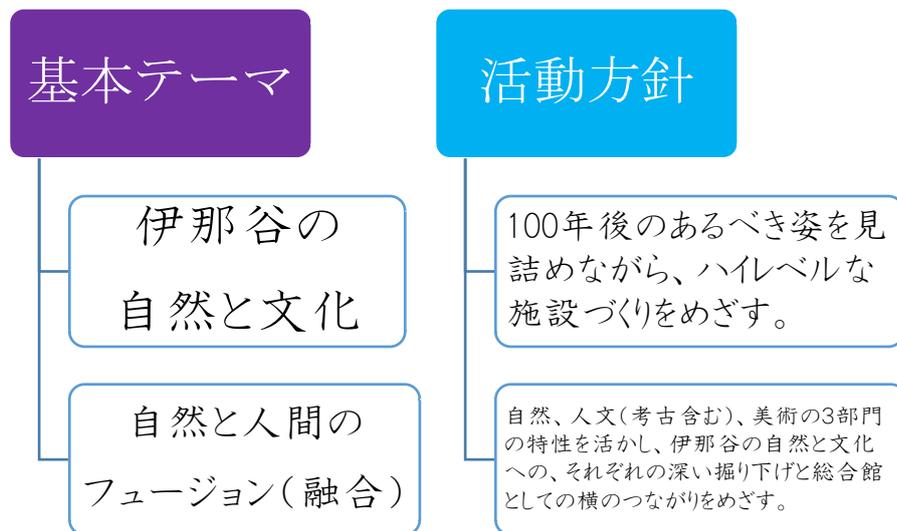
第2章 飯田市美術博物館の歩み

1. 飯田市美術博物館の基本テーマと活動方針

当館は、「伊那谷の自然と文化」から「自然と人間のフュージョン(融合)」を探求することを基本テーマとして掲げ、「美術、自然科学及び人文科学に関する資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、展示して、市民の利用に供し、その教養、調査研究等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究を行う(飯田市美術博物館条例第2条)」ために、自然(プラネタリウムを含む)・人文(平成5年より考古を含む)・美術の3部門を有する総合博物館として、平成元年(1989)に開館しました。

以来、「100年後のあるべき姿を見詰めながら、ハイレベルな施設づくりをめざす」、「自然、人文、美術の3部門の特性を活かし、伊那谷の自然と文化への、それぞれの深い掘り下げと総合館としての横のつながりをめざす」という活動方針のもとで、市民団体等と協働しながら、伊那谷の自然と文化の特徴や環境と人の営みとの関わりを探りながら、当地域の人々の営みの背景、要素、特徴、精神性といったものを明らかにして、人々の生活文化が豊かになるための学芸活動を行ってきています。

こうした地道な取り組みの継続により、当館は市民をはじめとする多くの皆さんに、学びを提供する中核的な社会教育機関として、広く認められるようになっていきます。



2. 飯田市美術博物館の概況と主な沿革

当館には、自然と人文の常設展示室、菱田春草記念室、展示室A・Bの企画展示室、市民ギャラリー、講堂、科学工作室、学習室、プラネタリウム等の施設を有した本館と、その附属施設である「日夏耿之介記念館」および「柳田國男館」(平成28年11月29日国登録有形文化財に登録)があります。

開館当初は収蔵作品が少なく、展示室の閉室期間が少なくありませんでした。そこで館を挙げて特別展、企画展、特別陳列などの開催に努め、年間通じて開室できるようになってきました。

美術部門では、当館の目玉となる菱田春草の展覧会を、平成元年(1989)の開館記念特別展「菱田春草-空間表現の追求-」以来、春草没後80周年記念「天心傘下の巨匠たち」(平成3年)、開館十周年記念「天心傘下の巨匠たちII」(平成10年)、市制施行70周年記念「絵画の中の物語」(平成19年)、菱田春草没後百年記念展「春草晩年の探求」(平成23年)、菱田春草生誕140年・菱田春草生誕地公園完成記念「創造の源泉-菱田春草のスケッチ」(平成27年)などを開催してきました。また、「佐竹蓬平展」(平成2年)、「白隠展」(平成6年)、「原弘展」(平成8年)、「須山計一展」(平成14年)、「仲村進展」(平成18年)、「鈴木芙蓉のいま」(平成28年)など特徴ある功績を残した郷土作家や、「知られざる須田剋太の世界」(平成2年)、「井村コレクションの精粹」(平成

7年)、「藤本四八展」(平成8年)、「綿半野原コレクション展」(平成12年)など大型の作品寄贈に伴う展覧会、「ブラティスラヴァ世界絵本原画展」(平成15年・平成23年)、三遠南信交流特別展「ミュージアム・サミット美の競演」(平成22年)などの巡回展を開催してきました。

人文部門では、民俗芸能や文化財をテーマにした「伊那谷の人形芝居」(平成3年)、「人形の魔術師 川本喜八郎展」(平成10年)、「聖徳太子絵伝が語るもの」(平成13年)、「伊那谷の文化財」(平成14年)、「遠山霜月祭の世界」(平成18年)、「獅子舞」(平成22年)、「民俗の宝庫<三遠南信>の発見と発信」(平成24年)、田中芳男没後百年記念「日本の近代化に挑んだ人びと―田中芳男と南信州の偉人たち―」(平成28年)、考古関連の「伊那谷の馬 科野の馬」(平成9年)、「黄金の世紀」(平成23年)、など、多彩な展覧会を開催してきました。

自然部門では、地学関連の「伊那谷の災害」(平成3年)、「遠山大地変と埋没林」(平成18年)、「3.11 東日本大震災3周年 地震と地盤災害」(平成25年)、「高山のダイナミズム」(平成28年)などを、生物学関連の「生命史 20億年」(平成9年)、「長谷川コレクション展 I」(平成10年)、「チョウとガの魅力」(平成12年)、「ひと・むし・たんぽ」(平成16年)、「こんな見つけた! ほくのわたしの里山コレクション」(平成21年)、「古代の生きもの大集合」(平成25年)、「生きもの小べや」(平成27年)などを開催してきました。

また、複数の部門が協力して、「風越山」(昭和63年 自然・人文)、「天竜川」(平成10年 人文・自然)、「日本博物館の父 田中芳男展」(平成11年 人文・自然)、「信州の祈りと美」(平成26年 人文・美術)などを開催してきました。

そして、市民主体の運動との協働により、菱田春草の「菊慈童」の購入(平成14年)や田中芳男像の再建(平成20年)にも取り組みました。

この間、平成5年(1993)7月、上郷町との合併によって「上郷考古博物館」が分館となり、「秀水美人画美術館」が附属施設となりました。さらに、平成16年(2004)4月には「追手町小学校化石標本室」を開設し、翌年10月、上村と南信濃村との合併により、「上村山村文化資源保存伝習施設」と「山村ふるさと保存館ねぎや」および「南信濃民芸等関係施設」の3施設を包含しました。現在、この3施設は、指定管理者により管理運営されています。

設備の面では、平成5年(1993)6月に「電子顕微鏡装置」を導入し、平成19年(2007)1月にESCO 事業による空調設備の更新を行い、平成23年(2011)3月にプラネタリウムの投影機を「デジタル投影機」にリニューアルしました。なお、開館から30年近くを経て、それぞれの施設や設備等の老朽化が進んでいます。

3. 飯田市美術博物館を取り巻く状況の変化

飯田市では当館の開館以後、学習文化施設が整備、設置されてきています。人形劇のまちづくりが進められるなかで、平成10年(1998)に「竹田扇之助記念国際糸操り人形館」が、平成19年(2007)に「飯田市川本喜八郎人形美術館」が開館しました。また、平成11年(1999)には、江戸時代の旗本伊豆木小笠原氏に關係する歴史資料を展示紹介する「小笠原資料館」が、平成14年(2002)には、天竜川の自然や環境、防災について学習する「天竜川総合学習館かわらんべ」が整備されました。そして、平成15年(2003)には、史料を中心に地域の歴史、文化等を科学的、学術的に調査研究する「飯田市歴史研究所」が設置されました。これらの施設は、博物館として登録されていませんが、博物館類似施設として、文化振興事業を行っています。

さらに、飯田市教育委員会生涯学習・スポーツ課が「恒川官衙遺跡³」や「飯田古墳群⁴」の国史跡指定に取り組むなど、当館の活動と関わりが強い、あるいは重複する取組が行われるようになっており、関係機関等との役割分担と連携を図っていくことが必要になっています。

一方、当館の活動においても、南アルプスジオパーク・エコパーク⁵への関与、伝統民俗芸能の保存継承活動

³ 飯田市座光寺にある恒川遺跡群から発見された「伊那郡衙」の遺構は、奈良・平安時代に伊那郡を治めていた役所跡とされ、日本の歴史を知る上で重要な価値を持っているとして、平成26年3月18日、国指定史跡とされた。

⁴ かつて520基以上の古墳があった飯田市内に現在残る18基の前方後円墳と4基の帆立貝形古墳は、その形式の多様さや位置関係がヤマト王権との関係を密接に示すとともに、地方の視点から古代国家の成立を知る上でも貴重であるとして、平成28年10月3日に国指定史跡となった。

⁵ ユネスコが進めている自然環境の保全と持続可能な地域発展の両立をめざす取組。エコパークは生態系の保全と持続可能な活用の調和を目的とし、ジオパークは大地と生態系や人間との関係を学ぶことが目的。3千m峰が連なる急峻な山岳環境の中、固有種が多く生息・生育している南アルプスは、2012年ジオパークに、2014年エコパークに登録された。本書では、登録順に「南アルプスジオパーク・エコパーク」と記す。

への支援、菱田春草生誕地公園整備への協力など、まちづくりに関連する活動が増えてきています。

このように、当館を取り巻く状況は大きく変化してきており、当館には、地域内外から多くの人をひきつける魅力を高め、また、関係する施設や機関、市民団体等と連携して、今まで以上に地域の魅力や価値を探究、発信し、学びを通じたまちづくりに寄与していくことが求められています。

4. 飯田市美術博物館の取組の成果と評価

当館は開館以来、「伊那谷の自然と文化」を対象に、「自然と人間のフュージョン(融合)」を明らかにするために、様々な取組を行ってきました。その取組は、私たちの暮らしを取り巻いている自然はどのようなものなのか、私たちはその中でどのような暮らしをし、どんなことを大切にしているのか、そして、何を創りだしてきているのか、といったことを探り、明らかにすることでもあります。



私たちの暮らしている伊那谷は、日本列島のほぼ中間に位置しています。近くには東西に走る中央構造線と本州中部を南北に分断している糸魚川静岡構造線が交わり、大規模な地殻変動によって隆起した南アルプスと中央アルプスの2つの3km級の山脈に挟まれている大きな谷と、浸食作用により刻まれた起伏に富んだ複雑な地形が、最大の特徴となっています。そして、生態系の南限と北限との重なりがもたらす自然の多様性と豊かさを持っており、今でも新種の動植物が発見されています。こうした特徴を持つ自然環境は、南アルプスコジオパーク・エコパークが象徴しているように、地球上でも珍しく、注目される存在となっています。

一方、人々の生活文化の面からこうした自然環境を見れば、豊かで多様な自然の恵みがある一方、多くの人口を養うだけの平坦な場所が少ないという条件となります。それでも伊那谷には、今から3万年以上前から人が住んでいたことが、飯田市山本にある2か所の旧石器時代の遺跡³の発掘調査によってわかっています。そして、当地域にある遺跡の分布や出土物、今に伝わっている民俗や習俗などから、伊那谷の人々は、少ない適地に分立し、厳しくも豊かな自然への畏敬の念を持ち、協力しあって暮らしを営んできたことが窺えます。それが、「山・里・街の多様な暮らし」を形成し、「自主自立の気概」を育み、「結いの精神」の醸成につながっているとと言えます。

そして、当地域で出土した物や今日に至るまで保存伝承されている多様な伝統芸能や民俗の調査から、それらの文物は中央構造線と糸魚川静岡構造線に沿ったルートでもたらされてきたことが推定されます。例えば、「縄文土器の文様」が山梨県で出土した物と類似していることや、「霜月祭り」は鶴岡八幡宮(鎌倉)とつながり、「新野の雪まつり」は春日大社(奈良)と関係し、「伝統人形芝居」は阿波や上方から伝えられたことなどから、伊那谷は、東西南北の文物が行き交う文化の回廊であると言えます。伊那谷の文化のこうした特徴は、日本における「自然と人間とのフュージョン(融合)」のあり方を示し、世界に日本を伝える大切な資産ともなりうるものです。

また、例えば、「飯田古墳群」はヤマト王権の勢力拡大を探る上で、「恒川官衙遺跡」は律令制国家建設の進め方を明らかにする上で、それぞれ注目されているように、日本の中央部に位置し、東西南北の街道が交差する伊那谷は、国内の政治状況や社会的な情勢の影響が複雑に絡み合う場所でもありました。そのため、当地域内で分立していた小勢力は、その時々々の政治社会の情勢に敏感に反応し、遠交近攻、離合集散を繰り返し絡み合いながら生きぬいてきました。



＜黒田人形芝居＞

³ 飯田市山本にある「石子原遺跡」(昭和47年発掘)と「竹佐中原遺跡」(平成13年発掘)で、双方から旧石器時代の石器が発見されている。日本列島の人類史の始まりは3万8千年前と言われているが、両遺跡の石器を調査したところ、3万年より古く5万年より新しいと推定された。両遺跡は、日本列島の人類史の始まりを探る上でたいへん重要なものであり、飯田はもちろん日本における貴重な遺物である。

東西南北の人・物・情報が行き交う場所であったからこそ、私たちの先人は交易と交流を通じて情報に対する感度を磨き、生きる知恵を得ること、すなわち、「学びと文化」を大切にしてきたと言えるでしょう。そのような精神風土が、田中芳男や菱田春草をはじめ近代日本の形成に活躍した人々を多く輩出した土壌となっているとも言えるでしょう。

知れば知るほど、探れば探るほど、「伊那谷の自然と文化」は、多様性と固有性を持っており、地球的に見れば個性的であると言ってもよいでしょう。当館は開館以来、「伊那谷の自然と文化」が持つ多様性と固有性を探るなかから、「飯田らしさ」のエッセンスとも言える「結いの精神」・「高い文化性」・「学びの風土」のあり方を明らかにする取組を進めてきています。そして、これからの大交流時代を迎えるに当たっては、グローバルな視野を持って、「伊那谷の自然と文化」と「飯田らしさ」を探求し訴求していく必要があります。

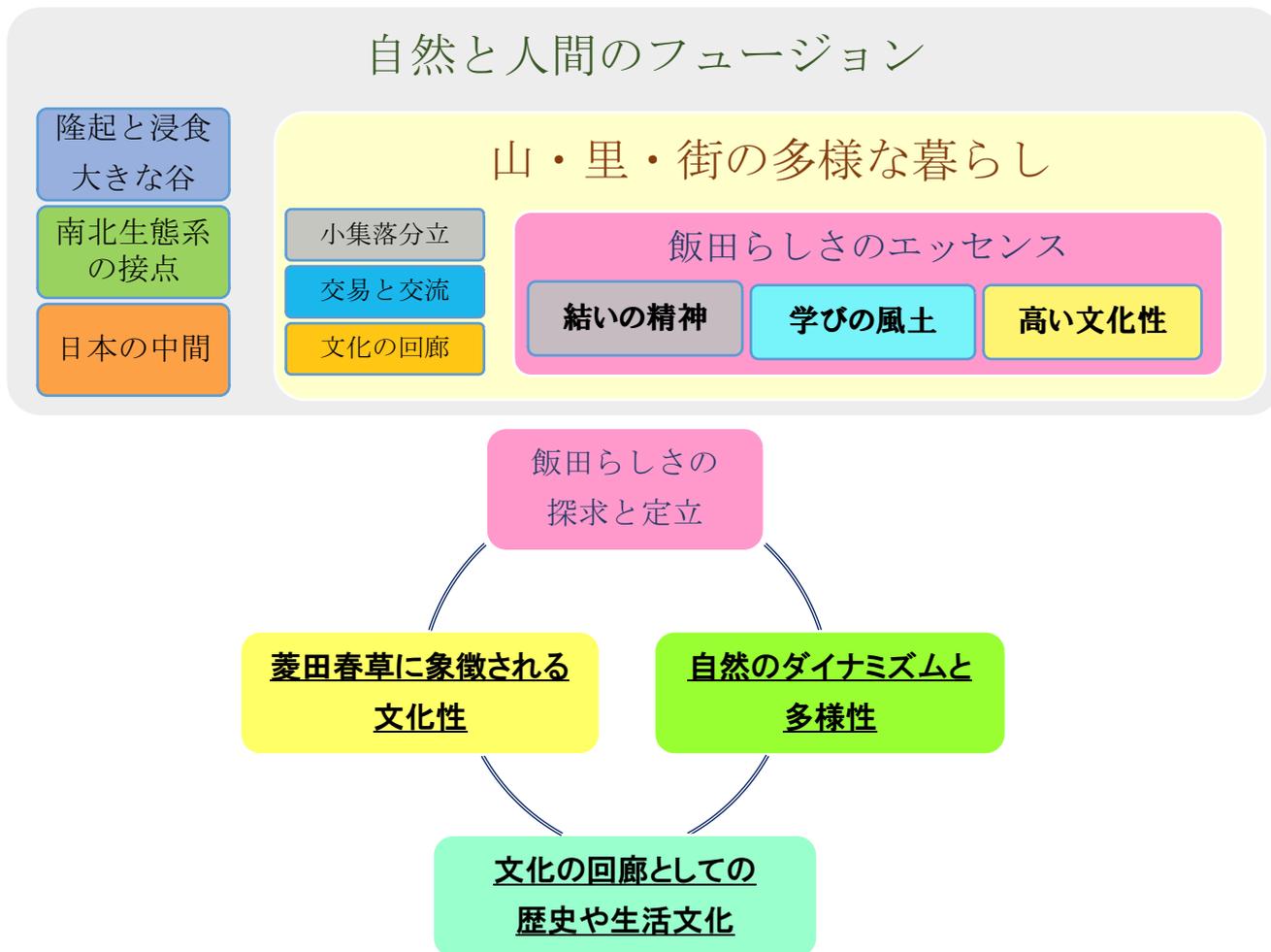
自然部門では、地球的に見ても特徴のある伊那谷の自然のダイナミズムと多様性を探求することによって、また、プラネタリウム部門と協力しながら、地球の成り立ちと動きを考えていきたいと思えます。人文部門では、文化の回廊としての伊那谷の歴史や生活文化の特徴や変遷を探求することによって、持続可能な地域のあり方を考えていきたいと思えます。美術部門では、飯田が生んだ日本画の開拓者である菱田春草を中心に伊那谷の文化性の高さを訴求していきたいと思えます。

こうした取組によって、「飯田らしさ」を磨いていきたいと思えます。



＜菱田春草「菊慈童」(当館蔵)＞

＜伊那谷の自然と人間のフュージョンが醸成する「飯田らしさ」＞



第3章 飯田市美術博物館 2028 ビジョン

1. めざす姿

当館は開館以来、「伊那谷の自然と文化」の特徴や環境と人の営みとの関わりを探りながら、当地域の人々の営みの背景、要素、特徴、精神性といったものを明らかにして、人々の生活文化が豊かになるための学芸活動を行ってきています。その中から、「伊那谷の自然と文化」は、多様性と固有性を持ち、地球的に見ても個性的であること、「飯田らしさ」は、結いの精神や高い文化性と学びの風土から醸し出されていることが、浮かび上がってきました。こうした特徴をもつ「伊那谷の自然と文化」は、飯田の価値と魅力を発信する大きな資源であるとともに、地域を知り学ぶ大切な教材でもあります。

世界や国内との時間的距離が飛躍的に短縮され、交流が活発化することが予想されるリニア時代において、心豊かで希望に満ちたまちづくりを進めるためには、グローバルな視野を持ちながら、地域の個性を大切に磨き、地域の価値と魅力を発信していくことが大切になります。

「いいだ未来デザイン 2028」は、「リニアがもたらす大交流時代に『くらし豊かなまち』をデザインする～合言葉はムトス 誰もが主役 飯田未来舞台～」をキャッチフレーズにして、実現したい8つのまちの姿を掲げており、その中には、「学びあいにより生きる力と文化を育むまち」という姿があります。

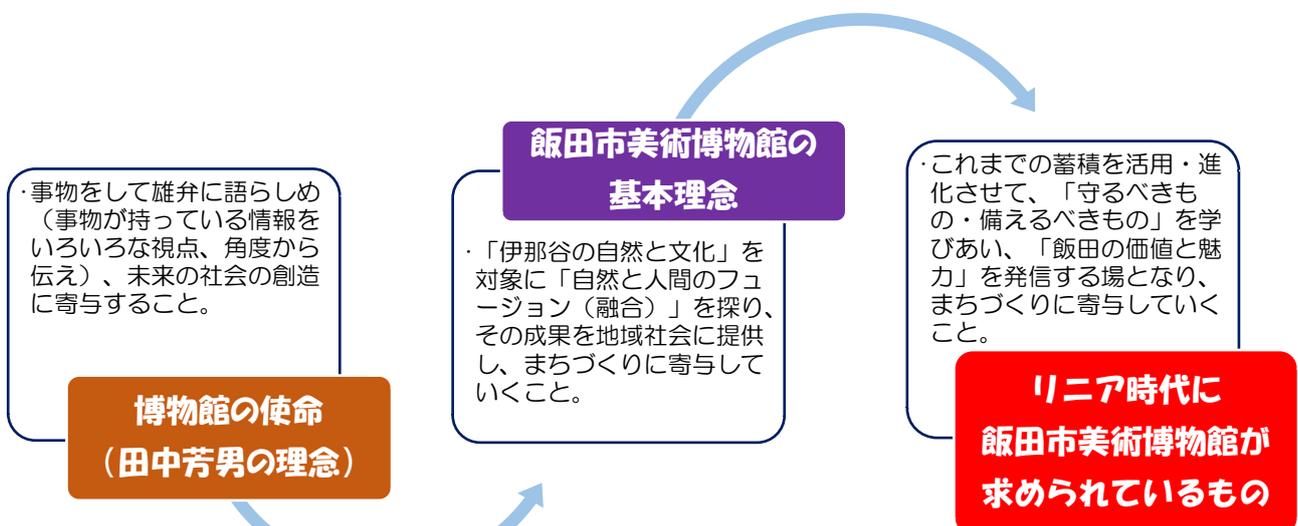
また、第2次飯田市教育振興基本計画は、「地育力による 未来をひらく 心豊かな人づくり」を教育ビジョンとして掲げ、変化の激しいこれからの時代に向かって、グローバル(地球規模的)な視野と感性、ふるさと飯田への誇りと愛着をもって、自らの力で未来を切り拓いていく人づくりを目指しています。そのビジョンを実現するための6つの取組方針の中に、「伊那谷の自然と文化」を学びと地域づくりに生かし継承することを掲げています。

こうした上位計画が目指しているまちや人づくりを進めるとき、当館の使命は、開館以来 30 年にわたって蓄積してきたものを活用、深化、発展させ、「守るべきもの・備えるべきもの」を考え、「飯田の価値と魅力」を内外に発信し、学びあうことによって、まちづくりに寄与していくことだと考えます。

こうしたことを踏まえて、当館の 12 年後のめざす姿を、「リニアがもたらす大交流時代に、『飯田の価値と魅力』を発信し学びあい、未来をひらくミュージアム」とし、これからの事業活動に取り組みます。

飯田市美術博物館 2028 ビジョン〈めざす姿〉

リニアがもたらす大交流時代に、
「飯田の価値と魅力」を発信し学びあい、
未来をひらくミュージアム



2. 重点目標

めざす姿の実現に向けて、3つの重点目標を定めます。

(1)「伊那谷の自然と文化」の総合的なガイダンス機能を高め、飯田の魅力を広く紹介します。

当館には、ユネスコのジオパーク・エコパークに登録された南アルプスに関する調査研究、宝庫と言われる民俗芸能や伝統文化等に関する有数の知見、近代日本画を切り拓いた菱田春草をはじめとする豊富な美術コレクション、全天型映像を生かすプラネタリウムなど、「伊那谷の自然と文化」に関する多くの蓄積があります。

今後は、これまでに蓄積した財産を総合的に活用して、地球的に見ても個性的と評価されている「伊那谷の自然と文化」を「飯田の魅力」として、広く紹介していく取組を進めるとともに、地域内の博物館類似施設や現地等との連携の強化、ネットワークの整備などに取り組み、当館設置時の基本構想が掲げた「伊那谷まるごと博物館⁷」へと誘う総合的なガイダンス機能を高めていきます。

(2)「地域振興の知の拠点⁸」の一翼を担うべく、「交易と交流」を視点に「飯田の価値と魅力」を探ります。

東西文化の接点と言われる当地域は、多様な生活文化を育み伝えてきています。その背景として、険しく複雑な地形の中に張り巡らされている道を通して、多彩な人、文物、情報をもたらされ、地域内で行き交う「交易と交流」があると考えられます。当地域ならではの「交易と交流」の有り様やそれによってもたらされた生活文化は、リニアがもたらす大交流時代のまちづくりの参考となります。

博物館には、学術研究機関としての役割があります。そうした機関等が協力連携しながらまちづくりに寄与していく「地域振興の知の拠点」の主要な一翼を担うべく、「交易と交流」を視点に「飯田の価値と魅力」を探る取組を進めていきます。

(3) 多様な学びに学術的に応え、文化の創造と地育力⁹の向上に寄与します。

当地域には古くより「学びの風土」があります。博物館は、教育機関としての役割があります。当館は開館以来、調査研究、教育普及活動において、市民研究団体との協働や他の教育研究機関との連携を大切にしてきました。しかし、近年、当館と協働して活動してきた研究者が高齢化等により減りつつあるとともに、市民の学びの欲求や学び方が多様化してきています。また、市民が、「伊那谷の自然と文化」や郷土の先人たちの偉業についても、知り、語り、誇れるような学びを提供していくことが大切になっています。

今後は、こうした学びの担い手や欲求の変化に対応するとともに、市民にとって主体的でリアリティに満ちた学びを進められるように、これまで以上に学術的専門性をいかし、また、市民や教育機関等との連携を強化して、地域文化の創造と人材の育成を図り、地育力の向上に寄与する取組を進めていきます。

⁷ 「伊那谷まるごと博物館」とは、伊那谷の各地にある自然や文化に関する事物や事象、それらの紹介や保存などの活動を行っている様々な団体や施設をいかして、伊那谷全域を学びの場とし、そのガイダンス機能を飯田市美術博物館が担っていくという構想。

⁸ 「地域振興の知の拠点」とは、これまでに飯田市において取り組まれてきた様々な学術研究や大学等との連携共同の成果を土台として、学術研究ネットワークの発展的な構築を図り、地域内外の知見の融合により新たな価値や文化を創造・発信する機能を整備しようという構想のことで、その中身は平成 29 年度以降にまとめられることになっている。

⁹ 「地育力」は、飯田市の造語で、ふるさとに自信と誇りを持つ人を育む力を意味する。飯田の資源を生かして、飯田の価値と独自性に自信と誇りを持つ人を育む力であり、地域の多様な資源や人材に触れながら体験的に学ぶ過程において発揮・活用される。

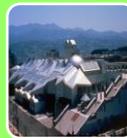
<めざす姿と3つの重点目標>



「伊那谷の自然と文化」の総合的な
ガイド機能高め、飯田の魅力
を広く紹介します。



「地域振興の知の拠点」の一翼を担
うべく、「交易と交流」を視点に
「飯田の価値と魅力」を探ります。



多様な学びに学術的に応え、文化の
創造と地育力の向上に寄与します。



3. 学芸活動の活動方針

近年、博物館・美術館は、本来の学芸活動の高度化専門化を期待されるとともに、その機能を地域振興に生かすことも求められるようになってきました。また、人々の日常生活のなかに生涯学習が広まり浸透するに連れて、「見てふれて 学んで考え 感動を得られるミュージアム」となるような学芸活動が大切になってきています。

当館は開館時から、地域重視を基本に市民との協働を図りながら、学芸活動を展開してきました。また、それぞれの学芸員が専門とする部門より広いものを扱うことが求められるため、様々な学術研究の動向や成果に目を配りながら、多くの研究者や教育研究機関等との協力も行ってきています。

今後は、学芸活動の部門ごとに取り組む方針を掲げ、蓄積した学術的な成果や専門的な知見を活用して、地域資源の資産化と未来への継承を進め、「守るべきもの・備えるべきもの」を学べ、「飯田の価値や魅力」を継続的に確認し、まちづくりに生かせるような学芸活動を展開していきます。

(1) 調査研究

調査研究は、学芸活動の基本をなすもので、その成果は研究紀要等の形で公表するとともに、展示公開や教育普及において利活用します。また、その内容は学術的な評価に耐えうる水準を求められるものです。

調査研究は、期間を限って集中的に取り組む場合や継続的に行う場合がありますが、いずれの場合でも目的と対象を明確にすることが重要です。

そして、当館においては、「地域振興の知の拠点」を担う一葉として、他の教育研究機関や「学輪IIDA¹⁰」等との連携を図りていく必要があります。

こうした調査研究活動の基本を踏まえ、今後の活動方針を以下のように定めます。

【調査研究 活動方針】
○「飯田の価値と魅力」を明らかにし、その成果をまちづくりに生かせる調査研究を進めます。
○テーマや対象を明確にした調査研究を進めます。
○市民等と協働する裾野を広め、調査研究活動の担い手の育成に努めます。

(2) 資料の収集保存

博物館資料の収集は、調査研究と一体をなすもので、一般的には、調査研究テーマに応じて博物館資料を収集する場合と、包括的に収集した博物館資料を詳細に調査し研究する場合があります。また、博物館資料には、標本、文献、文書、作品など様々な種類と形態、材質があり、当館所蔵、当館寄託、借用といった所有形態の違いもあります。

従って、博物館資料の収集と保管は、それぞれに適した方法で行う必要があるとともに、他の学芸活動において有効に利活用されるように、きちんとした整理・保管が大切です。

こうしたことを踏まえて、今後の活動方針を以下のように定めます。

【資料の収集保存 活動方針】
○「伊那谷の自然と文化」に関する学術研究の資料センターとしての機能を高めていきます。
○博物館資料の増加や貴重な文化財等の地域資源の保存に対応していきます。
○他の教育研究機関等と連携して、収蔵場所の確保について検討していきます。

¹⁰ 平成 23 年 1 月、南信州・飯田フィールドスタディなどを通じて飯田市と関係を深めてきた大学・研究者等が、市と各大学との1対1の関係から、飯田を起点として相互につながる有機的ネットワークを形成するために設立。「21 世紀型の新しいアカデミーの機能や場をつくる」をコンセプトとし、研究者同士が相互に知り合い親交を深めつつ、モデル的な研究や取組を地域(産業界・教育界・住民・行政等)とともに行っている。

(3) 展示公開

展示公開は、博物館・美術館の機能の中核をなすもので、人々の生活文化の向上や学びの発展に寄与するために、調査研究の成果を、物や情報を活用して広く分りやすく公開する活動です。

多くの博物館・美術館は、常設展示と、企画展・特別展・特別陳列（以下「企画展示等」という）を行っています。企画展示等に比重が置かれ、常設展示が疎かになるという問題が指摘されています。また、近年、常設展示を行わない施設も現れるなど、展示公開のあり方も多様化しつつあります。

展示公開の充実と魅力の向上には、不断に取り組む必要があります。特に常設展示は、その博物館・美術館の顔であり、常に改善し工夫していくことが求められます。また、時宜を得た企画、対象を明確にした内容、目玉となる展示物などを精選し、企画展示等の魅力を高める工夫も必要です。

そして、リニア時代においては何よりも、飯田の魅力を紹介し発信していく役割も担っていくことを意識して、展示公開活動を行っていくことが重要になります。

こうしたことを踏まえて、今後の活動方針を以下のように定めます。

【展示公開 活動方針】
○「伊那谷の自然と文化」の特徴を紹介し、「飯田の価値と魅力」を発信する常設展示を実現します。
○調査研究成果を活用して、まちづくりや市民の学びに応える企画展示等を計画的に開催します。
○多様な展示方法の導入や展示解説の充実を図り、わかりやすく楽しめる展示をめざします。

(4) 教育普及

教育普及は、博物館・美術館が教育機関としての役割を果たすための学芸活動です。地域のかげがえのない自然や暮らしが育んできた文化を楽しみ育んでいく学びは、人々の生活文化を豊かにし、まちづくりにつながっていきます。

当館は、学術的専門性を持つ教育機関として、他の教育研究機関と連携、協力し、市民の学びを支援していく役割が期待されています。

こうしたことを踏まえて、今後の活動方針を以下のように定めます。

【教育普及 活動方針】
○市民の学びの多様化に対応した取組を工夫するとともに、学び合いの場としての機能を高めていきます。
○子ども達への学びの提供や市民がまちづくりの参考とできるプログラムを提供し、地育力の向上を図ります。
○学芸員の持つ専門性や情報網、人脈をいかして、他の教育機関等と連携した教育普及活動を進めます。

(5) 学芸活動の体制

博物館や美術館の職員には、館長と、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる有資格の学芸員および学芸員の職務を助ける学芸員補の2職種（博物館法第4条・第5条）があります。当館では、学芸員と学芸員補に当たる専門研究員が部門ごとのチームとなって、学芸活動を行っています。

学芸活動を発展向上させていくためには、こうした体制を確保し整えていくことと、これまで以上に自然・人文・美術の3部門が連携していくこと、一層の職員の能力向上や研さんが欠かせません。

こうしたことを踏まえて、今後の活動方針を以下のように定めます。

【学芸活動の体制 活動方針】
○学芸活動の継続と発展を支える体制を確保し、市民の学びやまちづくりを支援できる取組を強化します。
○専門職種の役割分担と連携を柔軟に行うとともに、常に能力向上を欠かさないようにします。
○部門間の連携や協力を行い、当館の基本テーマに即した活動に取り組みます。

(6) 管理運営

管理運営は、来館者へのサービスや施設設備の管理業務など、施設全体の環境を整え向上させていく重要な任務を担っています。施設を劇場として見てみると、学芸活動が公演に当たり、管理運営業務はお客様に対応する表方と公演を支える裏方に当たると言えます。つまり、管理運営業務は、施設の活動の基盤であり、その評価に直結する大切なものです。

従って、管理運営においては、市民に親しまれ必要とされる施設をめざしていくことが基本です。**また、リニア時代**を迎えるに当たり、国内外へのアピールを強化し、より多くの人々が来館できるような運営も求められています。

こうしたことを踏まえて、今後の活動方針を以下のように定めます。

【管理運営 活動方針】
○常に市民に親しまれ必要とされるとともに、リニア時代をふまえて、サービスの充実や向上を図ります。
○リニア時代の人の流れを生かせるPRや情報発信の強化を図ります。
○計画的な施設設備の整備を進めていきます。

(7) 多様な主体との協働や研究教育機関等との連携

博物館・美術館の基本的な使命は、「学術文化の発展に寄与し、もって人々の生活文化を豊かにして、未来の社会の創造に寄与する」ことですが、この使命を達成していくためには、多くの研究者や教育研究機関等との協力が不可欠です。

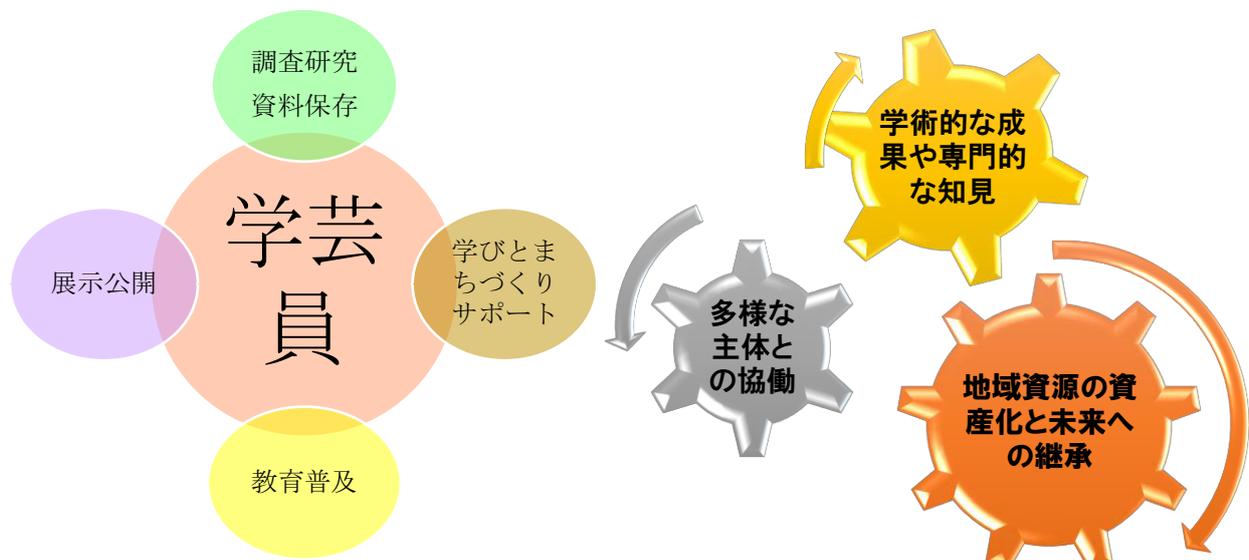
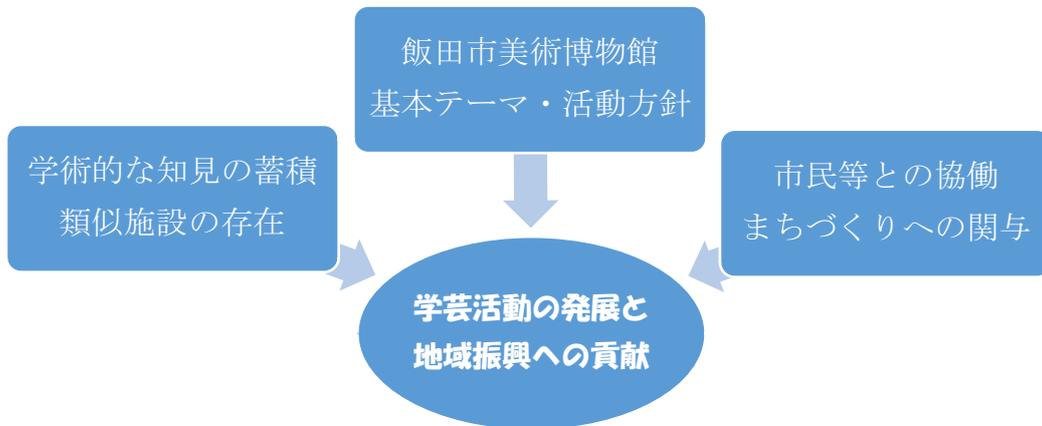
こうしたことを踏まえて、今後の活動方針を以下のように定めます。

【多様な主体との協働や研究教育機関との連携 活動方針】
○当館の学芸活動と地域の研究者や研究団体等の活動が、活発になり発展する協働を進めます。
○飯田市歴史研究所や飯田市立中央図書館等との役割分担と連携を図り、「地域振興の知の拠点」の一翼を担うとともに、学校教育機関や公民館等との連携のあり方を整えていきます。また、周辺地域にある類似施設等との連携や共同事業を進めます。

<ミュージアムの6W>



＜これからの学芸活動のあり方のイメージ＞



4. 各部門のテーマ・活動方針と重点的な取組

当館の自然・人文・美術・プラネタリウムの各部門では、それぞれの特質に応じて「伊那谷の自然と文化」を探求してきました。今後は、今までの蓄積を生かして本計画を達成するテーマと活動方針を掲げ、重点的に取組を進めていきます。

(1) 自然部門

自然部門では、地質と生物の分野から、主に伊那谷自然友の会と連携して、「伊那谷の自然とその成りたち」を探る取組を行ってきています。すなわち、内陸の火山帯と海溝の間で生じた過去から現在に至るいろいろな現象の痕跡や証拠を明らかにし、また、2,700mの標高差がある自然の多様性とその変化を継続的に調査しています。

また、学芸員が中心となって収集した資料や、関コレクション(世界のチョウ)、井原コレクション(伊那谷のチョウと蛾)、飯島コレクション(長野県産陸貝)、長谷川コレクション(世界各地の化石と骨)などをいかした資料センターとしての機能も発揮しています。



＜当館西側の岩石園＞

こうした活動の積み重ねによって、御池山隕石クレーターが発見、南アルプスジオパーク・エコパークの認定などの成果をもたらすとともに、地球上でも特徴のある伊那谷の自然の「厳しさ、面白さ、多様さ」を明らかにしつつあり、長野県を代表する自然系博物館として研究者等から認められるようになってきています。

今後は、今まで以上に「伊那谷の自然の厳しさ、面白さ、豊かさ」をより身近なものとして実感できるようにするとともに、その魅力を広く伝えていく必要があります。

テーマ	伊那谷の自然とその成りたちー厳しくも面白く多様な自然ー
活動方針	○オリジナルな調査研究をベースとしながら、地域の生活基盤である伊那谷の自然の成りたちを通じて、その厳しさ、面白さ、多様さを伝えていきます。
重点取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「伊那谷の自然の成りたち」をテーマとして常設展示の更新を行います。 ・伊那谷の自然の特徴と魅力を紹介する企画展示等を計画的に行います。 ・子ども達を対象に、伊那谷の自然を学ぶフィールド学習を行います。 ・暮らしに直接関係する災害や地球環境問題についての教育普及活動を進めます。 ・南アルプスジオパーク・エコパークの魅力を広める活動を支援していきます。
連携協働の組織等	学校教育課 生涯学習・スポーツ課 環境課 下伊那教育会 ジオパーク協議会 信州大学 ぶじのくに地球環境史ミュージアム 長野県環境保全研究所 天竜川総合学習館 (公財)南信州・飯田産業センター 伊那谷自然友の会 伊那谷研究団体協議会 など

(2) 人文部門

人文部門では、「伊那谷の文化とその特徴」をテーマとし、関係機関や市民研究団体、伝統芸能保存継承団体等と連携して、民俗や伝統的な文化芸能の調査記録、城下町の歴史と文化の発掘、郷土の偉人に関する資料収集と顕彰、考古資料などを対象にした調査研究を進め、先人が育んできた暮らしや文化のなかから、「飯田らしさ」を探る取組を行ってきています。特に、複雑な地形と東西の結節地域という地理的条件のもとで、保存伝承されている多様な民俗芸能に関する調査研究は、柳田國男が創設した民俗学を継承発展させている取組として、全国的にも独自の地歩を築いています。

こうした取組の中から、当地域の山・里・町の多様で豊かな生活文化は、地理的な状況に加えて、交易と交流によって形成され、「文化の回廊としての伊那谷」という様相を呈していることが明らかになってきました。また、田中芳男の胸像復活運動との協働など、郷土の偉人に関する学芸活動も拡充してきています。

こうした取組によってもたらされている知見や成果は、まちづくりや地域活動においても参考にされるようになってきました。また、当地域の民俗芸能は、日本における「自然と人間とのフュージョン(融合)」のあり方を示し、世界に日本を伝える大切な資産ともなりうるものという認識も広まりつつあります。

今後は、こうした成果を活用・進化させて、「文化の回廊としての伊那谷」を形成しているものを探求していく必要があります。



＜当館前庭の「田中芳男」の胸像＞

テーマ	文化の回廊としての伊那谷ー多様で豊かな文化を紡ぐー
活動方針	○これまでの蓄積を生かし、交易と交流という視点から、「文化の回廊としての伊那谷」の歴史と文化の魅力を明らかにしていきます。
重点取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「文化の回廊としての伊那谷」をテーマとして常設展示の更新を行います。 ・伊那谷の歴史、文化、産業の特徴と魅力を紹介する企画展示等を計画的に開催します。 ・田中芳男をはじめとする郷土の偉人を顕彰し、広める取組を進めます。 ・関連する諸機関や施設、地元研究者等と連携しながら、「伊那谷の文化の特徴を幅広く調査研究し、学べるセンターとしての機能の充実に努めます。 ・南信州広域連合と連携して三遠南信地方の民俗芸能の資産化を進めるとともに、伝統芸能や文化財の保存継承活動への支援を行っていきます。
連携協働の組織等	学校教育課 生涯学習・スポーツ課 飯田市歴史研究所 南信州広域連合 下伊那教育会 伊那民俗学研究所 伊那史学会 伊那谷研究団体協議会 長野県立歴史館 など

(3) 美術部門

美術部門では、当館設立の基本構想である菱田春草の顕彰を柱に、当地域の美術振興の中心となる施設になるべく活動を続けてきました。菱田春草の顕彰については、開館時から収蔵作品や関連資料の充実を進めながら、企画展示等で紹介しています。現在、全国有数の菱田春草作品コレクションを所蔵するまでになるとともに、春草研究センターとしての機能整備も進みつつあります。さらに、『菊慈童』の購入における市民運動や春草生誕地公園整備事業などにおける協働も行っています。

一方、伊那谷の美術を調査研究し、市民の芸術創造を支援するセンターとしても、郷土作家の作品を中心に、地方都市の美術館としては有数のコレクションを所蔵し、それらの作品に対する学芸活動を展開しています。

また、市民の創作活動への支援としては、平成 12 (2000) 年度から実行委員会方式による「現代の創造展」を毎年開催し、市民の創作活動の発表の場である市民ギャラリーは9割を超える利用率を維持しています。さらに、平成 14 年度(2002)から「子ども美術学校」を設け、学校以外の造形教育の場として多数の児童が通っています。

こうした取組の中から、飯田の文化性の高さを明らかにしてきており、日本を代表する春草美術館としての発展も期待されるようになってきました。

今後は、こうした蓄積のうえに、「飯田の魅力」を発信するために、菱田春草生誕地の美術館としての訴求力を



＜菱田春草記念室の展示＞

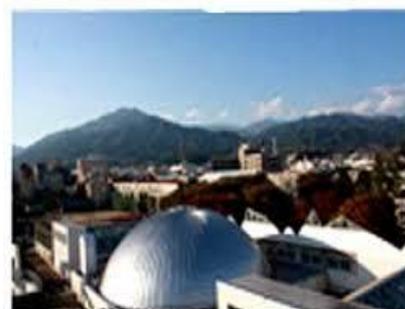
より強化するとともに、地域の美術活動の担い手の育成などを進めていくことが求められています。

テーマ	伊那谷の芸術文化—その心と創造の源—
活動方針	○菱田春草生誕地の美術館として、国内外に春草を発信していきます。 ○交易と交流という視点から伊那谷の芸術文化の様相や特質を明らかにし、新たな創造力を生み出す美術館をめざします。
重点取組	・全国唯一の菱田春草常設展示を実現するとともに、菱田春草研究成果を生かした企画展示等を計画的に行います。 ・地域の創造力を高めるために、伊那谷の美術に刺激を与える取組や、地域に所蔵されている作品の調査顕彰などを進めていきます。 ・次世代の表現力を高めるために、子ども達を対象とした教育普及活動を行います。
連携協働の組織等	学校教育課 生涯学習・スポーツ課 飯田市立中央図書館 飯田市歴史研究所 飯田市各地区公民館 下伊那教育会 菱田春草顕彰団体 地域美術振興団体 伊那谷研究団体協議会 長野県信濃美術館 長野県飯田創造館 など

(4)プラネタリウム部門

無限に広がる宇宙への興味と関心は、天文に関する様々な文化と宇宙に関する科学・技術の進歩と発展をもたらしています。当館では開館以来、主に子ども達を対象にして、プラネタリウム番組の投影による天文・情操教育を行ってきました。また、平成23年(2011)にデジタル式投影機を導入してから、和歌山大学と協力して「伊那谷の自然と文化」を記録・紹介するオリジナル番組の制作と投影を行っており、平成28年度までに17本の番組をラインナップしています。

今後は、「伊那谷の自然と文化」を紹介するガイダンス機能の強化が求められています。また、地元の官民学が協働して進めている航空宇宙産業の振興への関心を高めることや、「長野県は宇宙県¹¹」の活動との連携なども視野に入れ、プラネタリウムの本来の役割を生かし、天文宇宙に関心を持つ人や天文宇宙教育の担い手の育成といった取組も期待されています。



＜当館屋上のドーム＞

テーマ	「天文宇宙教育」と「地域発信」の映像ドーム
活動方針	○全天周映像の特徴をいかし、「天文宇宙教育」を推進するとともに、映像による「伊那谷の自然と文化」の発信する拠点をめざします。
重点取組	・学校教育等との連携を図り、子ども達を対象とした天文宇宙教育の事業とプログラムの開発などを進めます。 ・「伊那谷の自然と文化」を学び、発信するためのオリジナル番組の制作と投影を行います。
連携協働の組織等	学校教育課 生涯学習・スポーツ課 下伊那教育会 和歌山大学観光学部 飯田御月見天文同好会 宇宙に一番近い長野県推進協議会 (公財)南信州・飯田産業センター など

¹¹ 平成28年11月23日、「長野県がもつ「宇宙に近い」というすばらしい資産を多くの人たちと共有し、その魅力を広く伝えていくことにより、長野県の地域振興、人材育成、観光、天体観測環境維持に「寄与する目的」とし、「長野県は宇宙県」を合言葉として、長野県がもつ「宇宙に近い」というすばらしい資産への理解を広め、長野県の魅力を広く伝えていくといった、「宇宙」を観光・教育資産として活かしていく活動を推進するために、県内の天文研究施設を中心とした連絡協議会が設立された。

＜本計画における各部門のテーマ＞



世界に誇れる伊那谷の自然と文化の象徴

**ダイナミックな
自然の
多様性・固有性**

**文化の回廊で
育まれた
暮らしと文化**

**日本画の
革新者
「菱田春草」**

第4章 飯田市美術博物館 2028 基本プラン

本章は、「2028 ビジョン」の達成に向けた取組(アクションプログラム)を示す「2028 基本プラン」です。学芸活動の部門ごと、また、自然・人文・美術の各部門とプラネタリウム事業ごとに、開館以来の歩みを振り返りながら、現状と課題、活動方針と主な取組を示してあります。なお、第2章の「3. 学芸活動の取組方針」および「4. 各部門のテーマ・活動方針と重点的な取組」の記載と重複している部分があります。

1. 調査研究

(1) 現状と課題

当館の調査研究活動は、自然部門では伊那谷の成り立ちと自然環境を、人文部門では民俗や歴史文化の領域から人々が紡ぎ歩んできた生活文化を、美術部門では春草を中心とする郷土作家の芸術性を、それぞれのテーマとして、学術的なアプローチを基本に、市民研究者や地域の研究団体等と協働して地道に続けてきています。そして、調査研究の成果は、『研究紀要』(現在 23 号)や『自然史論集』(同 15 号)を毎年刊行しているほか、調査報告書の類いを数多く刊行して発表するとともに、企画展示や講座・講演会にも生かしています。

一方、自然部門における南アルプスジオパーク・エコパーク認定への関わり、人文部門における民俗芸能や地域の伝統文化の保存継承への関わり、美術部門における菱田春草生誕地公園整備や郷土出身作家顕彰への関わりなど、調査研究の成果を生かして、まちづくりや地域再発見などの取組への関与が増え、地域の皆さんからの期待を寄せられるようになってきています。

今後は、そうした期待に応えるとともに、「飯田の価値と魅力」を高めていけるように、テーマや対象を明確にした調査研究を推進していく必要があります。また、特に人文分野においては、飯田市歴史研究所や生涯学習・スポーツ課等が扱うものと重なることもあり、調整と連携を図りながら、より成果を高めていく必要があります。さらに、近年、当館と協働して活動してきた研究者が高齢化等により減りつつあることから、市民研究者等の育成も図っていく必要があります。

(2) 活動方針と主な取組

共通	方針 (再掲)	<ul style="list-style-type: none"> ○「飯田の価値と魅力」を明らかにし、その成果をまちづくりに生かせる調査研究を進めます。 ○テーマや対象を明確にした調査研究を進めます。 ○市民等と協働する裾野を広め、調査研究活動の担い手の育成に努めます。
	取組	<ul style="list-style-type: none"> ・適時適宜に、調査研究の成果を発表するとともに、展示公開や教育普及にいかします。 ・部門間や他の社会教育研究機関との間で、調査研究テーマや対象の調整を行います。 ・「地域振興の知の拠点」構想を踏まえ、他の社会教育研究機関や「学輪IIDA」等との連携を図ります。
自然	方針	○伊那谷の地形や地質、生物(動植物・古生物)を対象とした調査研究を通して、飯田の風土を形成してきた自然環境の多様性や固有性を掘り下げていきます。
	取組	<ul style="list-style-type: none"> ・天竜川流域の山岳、扇状地、河川などの地形地質および生物相を対象として、伊那谷の自然の特徴を明らかにする調査研究を行っていきます。 ・南アルプスジオパーク・エコパークを中心に、その保全活用を前提とした山岳地域の基礎研究を行っていきます。 ・現在の自然環境を記録し、過去の資料と比較することによって地域の環境変化を明らかにする調査研究に努めます。 ・地質や古生物を通じて、地史的な環境変化を明らかにする調査研究を行います。

人文	方針	○飯田下伊那の歴史や民俗芸能、文化財をはじめとする人為的所産(人文科学)を幅広く対象として、「文化の回廊としての伊那谷」の特質を明らかにしていきます。
	取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「交易と交流」という視点からテーマや対象を選び、関係機関との連携を図って、調査研究を進めます。 ・南信州広域連合と連携して、三遠南信地方の民俗芸能の資産化を推進し、日本遺産の認定を目指します。 ・各地区の個性を生かしたまちづくりに寄与するために、地域の民俗を調査・記録する取組を継続していきます。 ・上郷考古博物館、飯田市歴史研究所、生涯学習・スポーツ課との役割分担をしながら連携を深めるとともに、伊那民俗学研究所はじめ地元の研究者和との連携を強化します。
美術	方針	○菱田春草研究の拠点をめざすとともに、伊那谷の芸術文化の特質を明らかにしていきます。
	取組	<ul style="list-style-type: none"> ・菱田春草研究拠点をめざして、菱田春草の作品研究と春草が遺した資料を調査し、春草生誕地ならではの春草研究を進めます。 ・郷土作家・地域コレクションの調査研究を通して、伊那谷の美術における交流の様相とその特色を明らかにします。 ・市民との協働により、伊那谷の美術の再発見に努めます。 ・地域の核となる美術館として、他の美術館や大学、研究団体などとの研究交流を進めます。
プラネタリウム	方針	○プラネタリウムの利活用、全天映像の可能性に関する調査研究を進めます。
	取組	<ul style="list-style-type: none"> ・先進的な取組や新技術に関する情報を収集し、利活用を検討します。 ・天文宇宙教育に効果的な番組を選定します。 ・より多くの市民がプラネタリウムを鑑賞し学べるように、出前投影などの研究を行います。

2. 資料の収集保存

(1) 現状と課題

当館は、開館以来、各部門に関連する博物館資料を収集保管してきました。自然部門では、植物・昆虫・動物の骨格標本・化石・岩石鉱物など 82,000 点余を所蔵しています。人文部門では、歴史・民俗・考古や柳田國男、日夏耿之介、田中芳男など郷土出身者に関する博物館資料を 13,000 点余を所蔵しています。

美術部門では、「菊慈童」(長野県宝)、「春秋」などの菱田春草作品 30 点(含む飯田市指定有形文化財 6 点)を所蔵しているだけでなく、春草のスケッチ、下絵、書簡など多数の寄託資料を保管しており、全国でも有数の菱田春草コレクション、春草研究センターとなりつつあります。さらに、飯田ゆかりの寄贈コレクション(岩崎新太郎コレクション・綿半野原コレクション・井村コレクション・藤本四八コレクション・須田剋太コレクションなど)や郷土出身の作家の作品および資料を含め全体で 29,000 点余を所蔵しています。

一方、博物館資料のデータベース化や収蔵目録の作成を行っていますが、未整理の物もあり、市民や研究者等にとって効率的な利用ができる状態になっていません。また、近年、本市においても、地域コミュニティや個人が所蔵管理してきた文化財や美術品が寄贈、寄託されるなど、博物館資料が増える傾向にあり、収蔵場所の拡充が大きな課題となりつつあります。さらに、他の教育研究機関も類似資料を収集しており、市全体として、資料等の収集、保存、活用を図る方針の明確化や保管場所の整備などの対応が求められています。

(2) 活動方針(再掲)と主な取組

共通	方針 (再掲)	<ul style="list-style-type: none"> ○「伊那谷の自然と文化」に関する学術研究の資料センターとしての機能を高めていきます。 ○博物館資料の増加や貴重な文化財等の地域資源の保存に対応していきます。
----	------------	---

		○収蔵場所の確保について、他の教育研究機関等と連携して、検討していきます。
	取組	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵している博物館資料の整理、取捨選択、目録化、データベース化を進めます。 ・ICTを利用したデータベースや情報提供についての検討を行います。 ・収蔵品や寄託品、それらを収める収蔵庫の適切な環境管理を行います。 ・収蔵場所の確保について、他の教育研究機関等と連携して、検討していきます。
自然	方針	○地域の自然史資料と自然教育用基礎資料を中心に、博物館資料の充実を図ります。
	取組	・長谷川コレクションの整理とその保存を進め、利活用を検討します。
人文	方針	○人文科学的に地域を幅広く学べる資料センターとしての機能充実に努めます。
	取組	・地域や個人が管理収蔵し、散逸や消滅が懸念される文化財や重要資料の保存管理対策について、積極的に関わっていきます。
美術	方針	○伊那谷の美術について欠かすことのできない作品、資料の収集、保存を進めます。
	取組	<ul style="list-style-type: none"> ・伊那谷の美術について欠かすことのできない作品、資料の収集、保存を行います。 ・市民と協働して、地域の美術の保存と継承に努めます。 ・菱田春草作品等の増強に向けて、ふるさと納税や募金等を工夫し、基金の充実に努めます。
プラ ネタリ ウム	方針	○オリジナル番組データの適切な保存に努めます。
	取組	・データの適切な保存ができるように機器等の計画的な更新を行います。

3. 展示公開

(1)現状と課題

当館は、自然部門と人文部門の常設展示を行うとともに、各部門の調査研究の成果や博物館資料を公開する企画展示等をほぼ毎年開催してきました。また、平成 14(2002)年9月に、文化庁の「公開承認施設」の認定を得て、国指定重要文化財等の公開も行っています。しかし、開館以来、常設展示の更新が行われておらず、また、美術部門では春草記念室の常設化が実現されていないなど、展示公開は企画展示等に偏っています。そのため、他の学芸活動に充てる時間や労力が乏しくなっています。

今後は、「伊那谷の自然と文化」のガイダンス機能を強化するために、部分更新を行いながら常に地域をアピールできるような常設展示を行っていくことが必要です。そして、企画展示等においては、「飯田の価値と魅力」を発信し、まちづくりや市民の学びのニーズに応える内容を中心に扱っていくといった機能分担を図る必要があります。また、展示公開と連動するワークショップやプラネタリウム投影を行うほか、ICT等の利用や担当スタッフによる展示解説の充実などを図り、展示公開を通じた学びや地域発信を深めていけるようにしていく必要があります。

(2)活動方針と主な取組

共通	方針 (再掲)	<ul style="list-style-type: none"> ○「伊那谷の自然と文化」の特徴を紹介し、「飯田の価値と魅力」を発信する常設展示を実現します。 ○調査研究成果を活用して、まちづくりや市民の学びに応える企画展示等を計画的に開催します。 ○多様な展示方法の導入や展示解説の充実を図り、わかりやすく楽しめる展示をめざします。
	取組	<ul style="list-style-type: none"> ・常設展示は、自然部門と人文部門を関係づけ、地域外には当地の魅力と概要を提供し、地域の人々には自分たちの住む地域を学べる場となるような更新を行います。また、調査研究活動や資料収集の成果をタイムリーに反映できる空間を常設展示室内に設けます。 ・企画展示等は、「飯田の価値と魅力」を発信し、まちづくりや市民の学びのニーズに応えるも

		<p>のとして位置づけ、部門ごとおよび部門連携によって企画し、計画的(大規模な特別展や企画展は数年に1回、特別陳列は年1~2回程度)に開催します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分りやすく興味を持てる展示となるように、展示と連動したワークショップ、プラネタリウムオリジナル番組との組み合わせ、ハンズオン(触れる体験できる)展示やデリバリー(出前)展示など、多様な展示方法を導入するほか、展示解説におけるICTの活用やガイド役スタッフの養成などに取り組みます。 ・今まで以上に、学校教育や地域の社会教育、市民学習団体などが展示を利活用できる仕組みや連携方策を検討し、整えていきます。
自然	方針	○伊那谷の自然を身近に感じられ、よりよく知ることができる展示をめざします。
	取組	<ul style="list-style-type: none"> ・常設展示を「伊那谷の自然とその成り立ち」をテーマにして、伊那谷の自然を地域から読むことができるような展示に更新します。また、人文部門の常設展示とつながるような動線づくりに配慮します。 ・「伊那谷の自然」を紹介する企画展示等を計画的に開催します。
人文	方針	○「交易と交流」という視点から「文化の回廊としての伊那谷」を紹介する展示に努めます。
	取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「文化の回廊としての伊那谷」をテーマにして、伊那谷の文化や歴史の特徴を物語るような展示に更新します。また、自然部門の常設展示とつながるような動線づくりに配慮します。 ・「伊那谷の人文」を紹介する企画展示等を計画的に開催します。 ・散逸が懸念される有形文化財や消滅や変容が懸念される無形文化財を展示し、人々の関心を高めていきます。
美術	方針	○全国唯一の菱田春草常設展示の充実に努めるとともに、伊那谷の芸術文化の特質を明らかにし、新たな創造力を生みだす展示をめざします。
	取組	<ul style="list-style-type: none"> ・菱田春草研究の成果を全国唯一の春草記念室で常設展示するとともに、特別展・企画展を計画的に開催し、菱田春草を顕彰します。 ・伊那谷の美術の特色と魅力を伝えるコレクション展示、展覧会を開催します。 ・地域の創造力を高めるために、伊那谷の美術に刺激を与える展覧会を開催します。
プラ ネタリ ウム	方針	○オリジナル番組制作のノウハウを発揮して、地域を紹介していきます。
	取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「伊那谷の自然と文化」を題材としたオリジナル番組の制作(年1本)と投影を行います。 ・世代に応じた教育番組の通常投影と、「プラネタまつり」や天文宇宙の話題に則した「企画投影」を行います。

4. 教育普及

(1)現状と課題

当館は、開館当初から市民団体等と協働して、部門ごとに調査研究の成果を裏付けにして、年100回ほどの講座・講演会・ワークショップなどを行ってきていますが、近年、講座形式の教育普及事業への参加者の固定化や減少といった状況が進んでいる一方で、参加型あるいは体験型、出前型の教育普及事業への参加者や要望は増えています。その要因として、これまでの教育普及事業に参加してきた皆さんが高齢化していることのほか、様々な情報や知識に手軽に接することができるようになるなか、市民の学びへの欲求やアクセスの仕方が知識獲得型から多様化していることが考えられます。

また、市民が、「伊那谷の自然と文化」の特徴や価値をはじめ、田中芳男や菱田春草などの郷土の偉大な先人たちについて、知り、語り、誇れるような学びを提供していくことも大切になっています。

こうしたことから、今後の教育普及においては、講座等の内容や回数を精選する一方、体験型や参加型、出前型の拡充、展示公開との連動、部門間や他の教育研究機関と連携した企画、音楽やスポーツ等とのコラボレーシ

ョンによる企画など、市民の学びの多様化に対応した内容や方法を工夫していくとともに、新たな協働の場を整えていく必要があります。また、専門性の高い教育研究機関として、学校教育を補完、支援していく取り組みも進める必要があります。

(2)活動方針と主な取組

共通	方針 (再掲)	<p>○市民の学びの多様化に対応した取組を工夫するとともに、学び合いの場としての機能を高めていきます。</p> <p>○子ども達への学びの提供や市民がまちづくりの参考とできるプログラムを提供し、地育力の向上を図ります。</p> <p>○学芸員の持つ専門性や情報網、人脈をいかして、他の教育研究機関等と連携した教育普及活動を進めます。</p>
	取組	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画により、タイムリーな話題や基礎的な内容、当館の研究成果の紹介など、市民のニーズに応える講座や講演会を開催します。 ・参加型や体験型の教育普及プログラムやアウトリーチの機会を増やしていきます。 ・調査研究の成果をまちづくりに生かせるようなプログラムを研究、検討します。 ・学校教育を補完、支援するようなプログラムを、学習指導要領を参考に研究、検討します。 ・個人の学びに応える支援(指導・助言等)を行います。
自然	方針	<p>○オリジナルな教材や現地を利用し、「伊那谷の自然」や科学に関する学びが深まるような教育普及活動を展開します。</p> <p>○環境学習や防災教育につながっていく教育普及活動を継続的に行うことをめざします。</p>
	取組	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども向けの自然教室、科学工作教室、ワークショップを企画し実施します。 ・伊那谷自然友の会と連携した観察会や行事の開催を継続します。 ・公民館、天竜川総合学習館、子どもの森公園などと連携した取り組みを推進します。 ・環境課等と連携した環境教育、危機管理室と連携した防災教育の支援をおこないます。
人文	方針	<p>○歴史や民俗芸能、文化財等様々なテーマから「伊那谷の文化」を学べる教育普及活動を展開します。</p>
	取組	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達が、田中芳男をはじめとする郷土の偉人について知る取組を強化します、 ・藤本四八氏の顕彰を図るため、子ども写真教室や小中高生写真賞の拡充を図ります。 ・旧城下町の建造物や偉人ゆかりの史跡探訪など様々な切り口で見学会を開催します。 ・継続的に実施可能な体験学習や学校教育との有効な連携方法を研究します。
美術	方針	<p>○菱田春草の研究拠点にふさわしく、また、伊那谷の芸術文化の振興に寄与する教育普及活動を展開します。</p>
	取組	<ul style="list-style-type: none"> ・市民や子ども達への菱田春草に関する教育普及活動を、様々な方法により進めます。 ・地域の創造力を高めるために、伊那谷の美術に刺激を与える講座を開催します。 ・次世代の表現力を高めるために、子ども達を対象とした美術講座を開催します。 ・市民ギャラリーの活用など、市民が芸術活動を発表するための支援を行います。
プラネタリウム	方針	<p>○世代や目的に応じた良質な投影プログラムを提供します。</p>
	取組	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校における天文学習を支援するための教員向けプログラムを提供します。 ・番組制作や全周映像制作に関する体験型ワークショップを行います。 ・市民がプラネタリウムの解説投影や天文観察の担い手となるような取組を進めます。 ・研究者等を招いての天文講演会を開催します。

5. 学芸活動の体制

(1) 現状と課題

当館は、開館以来、学芸員を順次採用拡充してきており、平成 29 年 4 月現在、自然部門3人(地質・生物・古生物)、人文部門3人(民俗・歴史文化・考古)、美術部門2人(美術全般・近現代美術)の計8人が在籍しています。また、臨時職員として、自然部門で3人、人文部門で2人(歴史文化・考古)、美術部門で1人(美術教育)、プラネタリウム部門で2人の計9人の専門研究員が在籍しています。

本計画の期間中には、半数の学芸員が退職を迎えることから、今後は、学芸活動の継続と発展に向けた退職者を計画的に補充するとともに、新規採用学芸員の育成システムを整えておくことも重要になります。

また、近年、学芸員は、まちづくりの支援者としての役割や他の社会教育機関等との連携の推進が期待されるようになっており、研究員には学校教育等を補完、支援する役割が期待されるようになってきています。

こうしたことを踏まえて、学芸員と専門研究員の役割分担と協力連携のあり方を整えておく必要もあります。

なお、体制の整備については、「地域振興の知の拠点」の形成や生涯学習・スポーツ課、飯田市歴史研究所との関係なども視野に入れて検討する必要があります。

(2) 活動方針と主な取組

方針	<ul style="list-style-type: none">○学芸活動の継続と発展を支える体制を確保し、市民の学びやまちづくりを支援できる取組を強化します。○専門職種の役割分担と連携を柔軟に行うとともに、常に能力向上を欠かさないようにします。○部門間の連携や協力を行い、当館の基本テーマに即した活動に取り組みます。
取組	<ul style="list-style-type: none">・学芸活動における自然・人文・美術の3部門体制と、各部門における研究領域(自然:地質・生物/人文:民俗・歴史文化/美術:近現代・美術史)を維持し、これまでの蓄積を継続発展させられるように、退職者の補充を行うとともに、学芸員の育成体制も整備します。・展示公開や教育普及において、部門間が連携する態勢を整え、企画や事業を行います。

6. 管理運営業務

(1) 現状と課題

当館の観覧料は、消費税率の改正に伴う改訂を行ったほかは、開館以来の水準を維持し、企画展や特別展等の特別料金もできるだけ低く抑えけるとともに、教育普及活動は原則無料で行っています。また、平成 20(2006)年に「飯田市美術博物館ロゴマーク」を決定し、「びはく年間パスポート会員」の募集を開始しました。パスポート会員の利用状況は、全国の類似施設と同水準を維持しています。さらに、平成 21(2007)年3月からロビー空間を無料化するなど、利用者サービスの向上や改善に努めています。

しかし、近年、少子化や人口減少、類似施設の増加などによって、ピーク時に7万人余であった入館者数が、近年5万人余で推移している状況であり、今後の社会情勢やリニア時代を迎える状況変化を考慮して、開館時間や観覧料体系の見直しなどが必要になっています。

施設の管理においては、築後 30 年近くを経過する建物や設備機器の改修や更新が大きな比重を占めるようになってきており、計画的に対応していくことが求められています。なお、ポストモダン建築である本館や国の登録有形文化財に登録された柳田國男館は、建物それ自体が文化財であるため、その維持管理には価値を損なわないよう配慮する必要があります。

(2)活動方針と主な取組

方針	<p>○常に市民に親しまれ必要とされるとともに、リニア時代をふまえて、サービスの充実や向上を図ります。</p> <p>○リニア時代の人の流れを生かせるPRや情報発信の強化を図ります。</p> <p>○計画的な施設設備の整備を進めていきます。</p>
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・PR活動の範囲や対象を広めていくとともに、SNS¹²(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)などの普及に対応するなど、PRや情報発信の工夫、改善に努めます。 ・ICT¹³(インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー)を活用した来館者等へのサービス提供ができるように、Wi-Fi等の設置や展示解説情報提供機器の整備に取り組みます。 ・計画的に施設設備やプラネタリウム機器等の改修、更新を進めます。(更新計画の策定) ・増加しつつある博物館資料の収蔵保管に必要な収蔵スペースの拡充を図ります。なお、この課題は、当館だけではなく飯田市歴史研究所や飯田市立図書館、生涯学習・スポーツ課等にも共通するものがあることから、教育委員会全体で検討していく必要があります。 ・開館以来ほとんど変わっていない観覧料や開館時間等について、社会情勢や全国の類似施設の状況を参考にして検討し、必要な見直しを行います。また、教育普及事業における適正な受益者負担についても検討します。なお、この問題については、次期飯田市行政改革プランの方針に基づき、類似施設との均衡も配慮して、関係施設が一体的となって検討する必要があります。 ・年間パスポート制度については、会員特典の見直しや更新方法の改善などを行いながら、現状(利用率が観覧者数の1%)の会員数を維持していきます。 ・海外からの観覧者へのサービスやPRについて研究します。

¹² 人と人とのつながりを促進・支援する、コミュニティ型の Web サイトおよびネットサービスのこと。

¹³ 情報や知識の共有・伝達といったコミュニケーションを、情報通信を利用して活発にする技術のこと。

第5章 飯田市美術博物館 2028 基本プランの展開

「飯田市美術博物館 2028 基本プラン」は、計画期間を前・中・後期の3期に分け、各期を迎えるごとに具体的な取組を定めて展開していくこととし、本計画の上位計画である「第2次飯田市教育振興基本計画」が定める活動指標により、各期の取組状況を評価していきます。

本章では、前期・中期・後期の各期における達成目標と重点的な取組および前期の取組と活動指標を示します。

1. 前中後各期の達成目標と重点的な取組

	達成目標と重点的な取組
前期	<p>【目標】展示の魅力アップと活動体制の整備強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然と人文の常設展示の更新と春草記念室常設化を行い、展示の魅力の向上や展示解説の方法や内容の整備を進め、情報発信力の強化を図ります。 ・学芸活動の継続と発展を確保するための学芸員の採用(退職者補充)を行う等、学芸活動を深化、発展させる体制の整備を図ります。
中期	<p>【目標】学びの多様化に対応した教育普及活動や情報提供の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びの多様化に対応して、展示解説や教育普及活動の内容や方法等の工夫、改善を進めます。 ・資料データベースを整備するとともに、Wi-Fi 環境の整備や ICT 等を利用した展示解説や教育普及の情報化を図ります。
後期	<p>【目標】「地域振興の知の拠点」の一翼を担う教育普及活動及び資料センター活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民や各教育研究機関との協働を拡充し、学びの多様化とまちづくりに応える取組を進めます。 ・収蔵場所の確保に努め、博物館資料等の活用を図ります。

2. 前期 4 年間(平成 29～32 年度)の主な取組と活動指標

(1)前期 4 年間の主な取組

活動分野	主な取組
調査研究	<ul style="list-style-type: none"> ●南アルプスジオパーク・エコパークと関連した調査研究を行います。【自然】 ●散逸の怖れがある有形文化財、消滅や変容が懸念される無形文化財について、優先的に調査記録を行っていきます。【人文】 ●地区の民俗調査を行い、報告書を刊行します。【人文】 ●春草記念室の常設化のための春草作品・資料の研究を行います。【美術】 ●伊那谷の文人文化と美術の調査研究を行います。【美術】 ●自由画教育についての共同研究を行います。【美術】
資料の収集保存	<ul style="list-style-type: none"> ●資料データベースの整備を進めるとともに、より利用しやすいシステムの導入を検討します。【共通】 ●長谷川コレクションの目録を完成させます。【自然】 ●学芸員の退職に伴い、管理を担当する収蔵品や寄託品、写真について、管理方法やデータベース等の情報を引き継ぎ可能な状態にしていきます。【自然・人文】 ●春草記念室の常設化に向けた春草作品・資料の収集を行います。【美術】
展示公開	<ul style="list-style-type: none"> ●開館 30 周年に合わせて、常設展示の更新を行います。【自然・人文】 ●南アルプスの生物に関する企画展を開催します。【自然】 ●飯田古墳群の国史跡指定記念企画展を、生涯学習・スポーツ課と連携して行います。【考古】

	<ul style="list-style-type: none"> ●風越山開山 1300 年にあわせて、企画展示を行います。【人文】 ●地域の動きなどの時機をとらえ、「交易と交流」の視点からの企画展示等を行います。【人文】 ●市制施行 80 周年記念事業として、春草記念室の常設化を行います。【美術】 ●自由画をテーマにした企画展を開催します。【美術】 ●「伊那谷の自然と文化」を題材としたオリジナル番組を年 1 本制作し、公開します。【プラネタリウム】 ●展示解説の充実に向け、シナリオ作成、スタッフの確保や育成などについて研究します。【共通】
教育普及	<ul style="list-style-type: none"> ●南アルプスジオパーク・エコパークと関連した教育普及活動を展開します。【自然】 ●南アルプスジオパーク・エコパークビジターセンターの整備を支援します。【自然】 ●LG飯田教育¹⁴の一環として、小学生を対象とした現地学習の「地球探検隊」、「子ども科学工作教室」などを開催するとともに、宇宙留学サマーキャンプ等に全面協力します。【自然・プラネタリウム】 ●藤本四八氏の顕彰を図るため、子ども供写真教室や小中高生写真賞の拡充を図ります。【人文】 ●小学 6 年生の修学旅行事前学習の一環として、「田中芳男」の出前講座を行います。【人文】 ●子ども美術学校等を開催するとともに、小中学校の図工・美術教育への支援を行います。【美術】 ●市民と協働した創造性のある展覧会等を開催します。【美術】 ●天文宇宙教育に関する番組や天文講演会などの教育普及事業を拡充します。【プラネタリウム】 ●各部門の調査研究成果や新しい知見、基礎などを学べる学級・講座を行います。【共通】
管理運営	<ul style="list-style-type: none"> ●計画的な設備の更新、施設の改修補修を行います。【庶務】 ●観覧料や受益者負担について検討を進めます。【庶務】 ●オリジナル番組制作用機材の整備や投影コントロール機器の更新を進めます。【プラネタリウム】 ●上郷考古博物館のあり方について検討を進めます。【考古】
共通	<ul style="list-style-type: none"> ●アンケート調査を集中的に行い、展示公開や教育普及事業の方法を見直す参考にします。 ●「美博まつり」や「びはく学芸祭」「プラネタリウムまつり」などを継続開催していきます。 ●リニア時代の人の流れを生かせるPRや情報発信、来館者サービスについて研究を進めるとともに、工夫、改善に努めます。
活動体制	<ul style="list-style-type: none"> ●退職する学芸員の業績を継承し発展させるための新規採用を行います。【自然・人文】

(2) 前期4年間の活動指標(第2次飯田市教育振興基本計画の活動指標)

前期4年間の活動指標として、「第2次飯田市教育振興基本計画」において、当館の事業が位置付けられている【取組の柱11「伊那谷の自然と文化」の学究・普及・継承・活用を推進する】の活動指標を準用します。
 なお、「第2次飯田市教育振興基本計画」では、活動指標を前中後の各期ごとに策定します。

<p>独自で、多様で、奥深い「伊那谷の自然と文化」をテーマに、市民研究団体等と協働して学術研究、教育普及、保存継承活動を進めるとともに、地域づくりや魅力ある生活文化の創造・発信につなげる取組を推進します。</p>				
目 標 値	指標名	現状	目標(H32年度)	備考
	調査研究報告書等の発刊件数	16	18	生涯学習・スポーツ課、図書館、美術博物館、歴史研究所における報告書等の発刊数
	教育普及事業実施回数	1,972	2,070	生涯学習・スポーツ課、公民館、図書館、美術博物館、文化会館、歴史研究所における学習・講座の提供数
	美術博物館来館者数	50,910	53,500	美術博物館で把握
	指定文化財等の累計	174	185	国・県・市の指定・登録された文化財数

¹⁴ Local(地域)とGlobal(地球)を一体的、系統的に学び、“Think Global, Act Local. Think Local, Act Global.”「地球規模で考え地域で実践し、地域を思い地球規模で活躍」できる人材を育もうとする飯田市独自の教育実践をさす。第2次飯田市教育振興基本計画において使われている。

【参考資料】

1. 策定の経過

- 平成 28 年7月 22 日<平成 28 年度第 1 回飯田市美術博物館協議会>
「今後の当館の活動を進めるためのビジョンやプランが必要」との意見具申がなされました。
- 平成 28 年8月 17 日<飯田市教育委員会定例会>
当館協議会の意見具申を受けて本計画の策定が決定されました。
- 以後、「本計画のたたき台(以下『たたき台』という)」を作成しました。
- 平成 28 年8月 28 日<自然>/9月 18 日<美術>/10 月 30 日<人文>
当館各部門評議員会で「たたき台」を説明し、意見を聴取しました。なお、特段の意見はありませんでした。
- 平成 28 年 11 月 14 日<飯田市教育委員会定例会>
「たたき台」が協議され、策定の手続きや日程が決定されました。
- 以後、「本計画の素案(以下『素案』という)」を作成しました。
- 平成 28 年 12 月1日<政策協議>
「素案」をもとに、市理事者との協議を行いました。
- 平成 28 年 12 月 8 日<平成 28 年度第2回飯田市美術博物館協議会>
「素案」が協議され、田中芳男の顕彰、内外への発信の強化、春草作品の増強などの意見が出されました。
- 平成 28 年 12 月 13 日<飯田市議会平成 28 年第 4 回定例会社会文教委員会協議会>
「素案」を説明しました。なお、特段の意見はありませんでした。
- 平成 28 年 12 月 14 日<飯田市教育委員会定例会>
「素案」が協議され、パブリックコメントに付すことが決定されました。
- 平成 28 年 12 月 20 日～平成 29 年 1 月 29 日
パブリックコメントを実施しました。なお、パブリックコメントの方法及び結果は、別項にまとめてあります。
- 平成 28 年 12 月 21 日<平成 28 年度第3回飯田市社会教育委員会議>
「素案」を説明しました。なお、特段の意見はありませんでした。
- 平成 29 年1月 29 日<美術>/2月1日<人文>/2月4日<自然>
当館各部門の評議員会において「素案」に対する意見等を聴取し、検討しました。なお、ここで出された意見等は別項にまとめてあります。
- 平成 29 年2月10 日<飯田市教育委員会定例会>
パブリックコメントの結果について報告しました。
- 平成 29 年2月15 日<平成 28 年度第3回飯田市美術博物館協議会>
パブリックコメント及び各部門評議員会から寄せられた意見等についての報告と協議を行いました。なお、ここで出された意見等は別項にまとめてあります。
- 以後、「本計画の原案(以下『原案』という)」を作成しました。
- 平成 29 年2月 22 日<飯田市教育委員会事務局会議>
「原案」を説明し、庁議(部長会議)および定例教育委員会に付すことを確認しました。
- 平成 29 年3月2日<庁議(部長会議)>
「原案」を付議し、了承しました。
- 平成 29 年3月3日<平成 28 年度第4回飯田市社会教育委員会議>
「原案」について、「素案」の変更点を中心に説明しました。
- 平成 29 年3月10 日<飯田市教育委員会定例会>
「原案」を協議し、「本計画の案(以下『案』という)」が決定されました。
- 平成 29 年3月 23 日<飯田市議会全員協議会>
「案」を説明しました。

2. パブリックコメントについて

(1)意見の募集期間・提出方法・閲覧提出場所等

募集期間	平成 28年12月 20 日(火)～平成29年1月 29 日(日)		
意見をお寄せ いただくことが できる方	○飯田市に住所を有する方 ○飯田市に存する学校に通学する方 ○飯田市に存する事務所又は事業所に勤務する方 ○飯田市に事務所又は事業所を有する法人等 ○飯田市美術博物館2028ビジョン・基本プラン(素案)に利害関係のある方		
意見の 提出方法	意見書に住所、氏名(法人、その他の団体にあつては主たる事務所の所在地、名称、代表者氏名)を明記の上、期限までに閲覧・提出場所(下欄記載)へ持参するか、郵送(消印有効)またはFAX、Eメールにより、飯田市美術博物館まで送付する。		
提出期限	平成29年1月29日(日)＜郵送は当日消印有効・持参は午後5時まで＞		
提出・お問い合わせ先	飯田市美術博物館 〒395-8501 飯田市追手町2丁目655番地7 電話:(0265)22-8118/FAX:(0265)22-5252/Eメール:kikujidou@city.iida.lg.jp		
閲覧・提出 の 場所と時間	閲覧・提出場所の名称	閲覧・提出の時間帯	できない日
	飯田市美術博物館	・午前9時 30 分～午後5時	休館日 (臨時休館日含む)
	飯田市上郷考古博物館		
	飯田市立中央図書館	・午前 10 時～午後6時 (火・水・金・土・日曜) ・午前 10 時～午後8時(木曜)	
	鼎図書館	・午前 10 時～午後6時	
	上郷図書館		
	飯田市歴史研究所	・午前9時～午後5時	
	飯田市役所本庁舎A棟2階 行政資料コーナー	午前8時 30 分～午後5時 15 分	土曜日 日曜日 祝休日
	りんご庁舎2階市民証明コーナー		
	各自治振興センター (橋北・橋南・丸山・羽場・東野を除く)		
飯田市公民館、橋北・橋南・丸山・ 羽場・東野の各公民館			
市のウェブサイト			

(2)パブリックコメントに寄せられた意見等

パブリックコメントに寄せられた意見等は、ありませんでした。

なお、この結果は、平成 29 年 3 月 31 日まで飯田市および当館のホームページに公表しました。

3. 協議会・評議員会からの意見等とその対応について

平成 29 年 1 月 29 日から 2 月 15 日までの間に開催された当館の協議会と各部門評議員会において、素案について出された意見等に対する考え方と対応については、以下のとおりです。

【協議会】: 当館協議会 / 【自然】: 自然部門評議員会 / 【人文】: 人文部門評議員会 / 【美術】: 美術部門評議員会

目次等	出された意見(要旨)	考え方と対応
全体的に	計画はよく練られており、学芸員の退職等による職員の交替などがあったとしても、美博の精神を受け継いでいくためにも活用できる。【人文】	本計画は、職員こそが、常に意識し、今後の活動の指針としていくべきものと認識していますが、その意義を忘れずに、計画を実行していきます。
	一般論として計画の構成は、これまでの活動の成果と課題を振り返り、今後の方針や取組につなげるという構成がわかりやすい。【美術】	意見の趣旨を踏まえて、「策定について」を第 1 章、「飯田市美術博物館の概況」を第 2 章という構成にするとともに、関連する部分を修正しました。
	田中芳男で始まり、吉田松陰で締めくくっていることは、たいへん意義深いと思う。【人文】	本計画には、田中芳男の故郷であることを誇りとし、地域に密着しつつ地域の未来を拓いていくことに貢献していく博物館でありたいという思いを込めています。このことを常に意識して活動や運営をしていきます。また、人文常設展示更新において、展示室入口付近に「田中芳男の紹介・顕彰」の場を設けるとともに、様々な機会に田中芳男を伝えていきます。
はじめに	冒頭で、博物館法の条文から説き起こし、田中芳男を紹介しているが、博物館の果たすべき役割を常に意識していくことは大切である。【美術】	
	より多くの人に、田中芳男を知ってもらう取組を強化、推移してもらいたい。【協議会】	
	欄外の脚注で「伊那谷」を地理的範囲で定義づけながらも、「当地域とは飯田下伊那を想定」とあるが、リニア長野県駅は長野県の玄関口となるので、範囲を上伊那まで含めるとともに、飯田に来れば長野県全体がわかるような展示を行っていくという考え方はあるのではないかと。【人文】	伊那谷の範囲は、赤石山脈や天竜川といった地理的連続性などから一般的に想定されている範囲と考えています。飯田市は、飯田下伊那の中心都市として歩んできていますので、市立の当館も活動の主要なフィールドを「飯田下伊那」としていますが、南アルプスジオ・エコパークや三遠南信地域の交流といったことも踏まえ、必要に応じて「上伊那地域」や「三遠南信地域」などもフィールドにしています。今後もこうした考え方を基本としていきます。
	飯田を中心とした「飯田下伊那」を前提としたい。「伊那谷」とすると視点が広くなりすぎる。【人文】	
第 1 章 1	「リニア時代において使命を果たしていくためには」という記述があるが、具体的にはどういうことを想定しているのか。【人文】	特にガイダンス機能を発揮していくこと、まちづくりへ関与が求められていくと考えています。意見の趣旨を踏まえて、関連する部分を修正しました。
第 1 章 4	「上郷考古博物館」の今後については、現時点では記述のとおりと思うが、国指定史跡の恒川官衙遺跡や飯田古墳群、3 万年以上前の石器などが、注目され、多くの研究者が来ることになる。考古の成果を生かすとともに、内外にアピールするために、博物館として存続させるべきである。【人文・協議会】	上郷考古博物館の今後のあり方を検討するなかで、参考にします。
第 2 章 4	端的に言って「伊那谷には世界に通用する価値と魅力がある」ということを明らかにしてきた美博の 30 年の活動の成果を記載しておいた方がよい。要するに飯田の価値と魅力は、自然の多様性、豊富な民俗文化、春草である。【自然・人文・美術】	準備の段階で 30 年の成果の振り返りし、「飯田らしさ」を探求してきたというまとめをしました。「飯田らしさ」の象徴と、各部門評議員会から異口同音に出された「自然の多様性・民俗文化・春草が、飯田の価値と魅力を象徴している」という意見は、ほぼ一致していますので、その趣旨を踏まえて、関連する部分を修正し、第 2 章 4 を追記しました。

目次等	出された意見(要旨)	考え方と対応
第3章 1	リニア時代には「飯田の価値と魅力」を伝える対象として、国内外から来る人を想定すべき。これまでの蓄積や成果の活用・進化は当然のこと。リニア時代に飯田の価値と魅力を国内外に発信していくことを積極的に表明する端的なものではないか。【自然】	意見を参考にして、めざす姿を見直しました。 見直し前：開館以来の蓄積を活用・進化させ、「守るべきもの・備えるべきもの」を学びあい、「飯田の価値と魅力」を発信するミュージアム 見直し後：リニアがもたらす大交流時代に、「飯田の価値と魅力」を発信し学びあい、未来をひらくミュージアム
	めざす姿の「守るべきもの・備えるべきもの」とは、具体的には何か。【自然】	当館の役割は、「守るべきもの・備えるべきもの」は何かという応えではなく、それを考える示唆を提供していくことと思っています。
第3章 2 (1)	都会から僅か数十分で飯田に来られる時代に、大都市で開催される大規模な展覧会を飯田でも開催する必要性は乏しい。例えば、都会の人間が憧れる柳田民俗のエッセンスは、わざわざ遠野へ行かなくても飯田で見られる。これは、大きな力になる。【人文】	「重点目標(1)」の記述には、そういう考え方を含めてあります。 民俗(伝統芸能)のアピールについては、意見の趣旨を踏まえて、関連する部分を修正しました。
	ガイダンス施設としての意義や機能については、もっと盛り込む必要がある。美博で観覧し学んでから、現地や他施設等の資料にもアクセスしていけるようにすること、すなわち「伊那谷まるごと博物館」をめざすことがガイダンス機能の向上になると思う。【自然・人文・美術】	ガイダンス機能においては、現地等へ誘導できることが必要です。また、「伊那谷まるごと博物館構想」は、当館設立の基本構想にも掲げられています。具体的な機能は、実際の取組のなかで検討し充実していきますが、意見の趣旨を踏まえて、関連する部分を修正しました。
第3章 2 (2)	美博には、資料を市民に紹介、供用するという使命がある。美博を中心に資料保存と提供機能を一元化し、資料の分散や散逸にも対応すべきで、それが「学術研究・資料収蔵センターとしての機能を高めていく」ことになる。他機関と連携して早めに構想を立て取り組んでいく必要がある。【人文】	平成29年度中に「地域振興の知の拠点構想」を検討し取りまとめることになっています。「地域振興の知の拠点」には、図書館や歴史研究所も関係してきますので、「地域振興の知の拠点構想」を検討するなかで、意見を参考にいたします。
	外からみると、歴研・図書館・美博など、どこにどんな資料があるか分かりにくい。美博中心にまとめて欲しい。また、飯田下伊那にある歴史民俗資料館や類似施設をネットワークする機能も果たして欲しい。【人文】	なお、「学術研究・資料収蔵センターとしての機能を高めていく」ことや「関係機関・施設のネットワーク形成」は、「地域振興の知の拠点」の一翼を担っていく上だけでなく、博物館の本来の活動を向上させるためにも大切なことですので、意見の趣旨を踏まえて、関連する部分を修正しました。
	歴史研究所を維持することは、財政的にも市民の負担になるので検討すべきである。【人文】	
第3章 2 (3)	博物館は、「人材育成の場」でもある。重点目標(3)では、それにも触れた方がよい。【自然】	意見の趣旨を踏まえて、関連する部分を修正しました。
第3章 3 (2)	資料センターでは、データベース化だけでなく、活用できるソフトとコンテンツの整備を進めることも大切である。【自然】	意見の趣旨を踏まえ、実際の取組のなかで留意していきます。
第3章 3 (3)	話題性ある大型巡回展の開催により、美術館の存在意義が高まる。現状では物理的にも無理だろうが、今後、民間の力も活かすなどして、専用展示室を増設することが必要と思うので、そうした研究や検討を進めて欲しい。【美術】	今後の美術館のあり方を踏まえた貴重な提案ですので、将来的な課題として研究しますが、本計画への登載は時期尚早と考えます。

目次等	出された意見(要旨)	考え方と対応
第3章 3(4)	「教育普及」は一体ではなく、児童生徒には教育、生涯学習は普及と分けて考えるべきである。【美術】	両面をとらえて、計画書は「学び」という文言を使っています。なお、これまでが「教育的方法」に偏りがちであったと評価していますので、実際の取組のなかで留意していきます。
第3章 3(5)	リニアがもたらす大変化に対応するために、職員のスキルアップと体制の増強が必要と思うので、そういう方針を掲げるべきである。【自然・人文・美術】	職員体制は、市役所全体の人事に関わりますので、当館の考えだけを記述できませんが、意見の趣旨を踏まえて、関連する部分を修正しました。
	館内(部門間あるいは職員間)の壁をとりはらうことがあってしかるべきである。【人文】	当館は開館以来、「3部門の特性を活かし、(中略)総合館としての横のつながりをめざす」という活動方針を大切にしてきましたが、ご意見の趣旨を謙虚に受け止め、関連する部分を修正しました。
第3章 3(6)	地域内外への広報やPRを拡充し、様々な事業や取組、成果をアピールしていく策が必要である。【美術】	同様の問題意識を持っていますので、意見の趣旨を踏まえて、関連する部分を修正しました。
	リニア時代を想定すれば、開館時間の延長などのサービス改善を検討すべきではないか。【美術】	意見の趣旨を踏まえて、関連する部分を修正しました。
	収蔵スペースの確保が現実的な課題であることに触れるべきである。【自然・協議会】	収蔵スペースの確保は、基本的かつ重要な課題として認識しておりますが、「地域振興の知の拠点構想」に関わる施設に共通する問題でもあることを踏まえて記述してあります。なお、今のところは、収蔵庫内の整理に努め、対処しています。
第3章 4(1)	自然部門は、県立の自然史博物館がない長野県を代表する博物館として研究者等から認められている。その自負をもって活動して欲しい。【自然】	そのように見られていることは、たいへん励みになります。当館の活動をアピールすることも含め、意見の趣旨を踏まえて、関連する部分を修正しました。
第3章 4(2)	人文部門では、産業も扱うべきである。産業遺産のストックが乏しくなっている。これからの産業も必要だが、醸造業など地に足のついた産業に注目したい。【人文】	人文常設展示の更新や今後の学芸活動のなかで、参考にするとともに、意見の趣旨を踏まえて、関連する部分を修正しました。
	産業遺産には、民具等がある。常設展示室にそのスペースを確保するのは難しいと思うので、市内にある民俗資料館や杵原学校などに美博の視点を加えて運営してゆくとよい。【人文】	今後の人文部門における活動や「地域振興の知の拠点構想」を検討するなかで、参考にします。
第3章 4(3)	春草は飯田の美術のシンボルということを主張すべきである。【美術】	意見の趣旨を踏まえて、関連する部分を修正しました。
第3章 4(4)	「長野県は宇宙県」という取組を始めたことに触れて欲しい。【自然】	意見の趣旨を踏まえて、関連する部分を修正しました。
	天文学習の拡充に向けては、人材の確保や育成が課題である。重点取組のなかに追加して欲しい。【自然】	意見の趣旨を踏まえて、関連する部分を修正しました。
第4章	それぞれの取組方針の書き方として、ねらいを明確にすることで、PDCAがしやすくなると思うので検討して欲しい。【自然】	記述はそのままとしますが、取組方針はPDCAで言えばPとCに当たりますので、意見を踏まえて、進捗管理していきます。
第4章 2(2)	春草や周辺作家の作品の充実に向けて、「ふるさと納税」や「篤志募金」などの取組が必要である。【美術】	意見の趣旨を踏まえて、関連する部分を修正しました。
第4章 3(2)	屋外彫刻の展示も行った方がいい。【美術】	今後の具体的な展示のなかで、検討します。

目次等	出された意見(要旨)	考え方と対応
第4章 3 4	<p>展示公開や教育普及においては今後ますます、市民参加型のイベントやワークショップなど、市民との協働が大切になっていくし、部門間の連携協力も濃密にしてゆく必要がある。例えば、28年度の「郷土の偉人展」では、自然部門と連携して標本作りなどのワークショップを行えたらよかった。【人文】</p>	同様の問題意識を持っていますので、意見の趣旨を踏まえて、関連する部分を修正しました。
	<p>学芸員が、住民が行う地域学習の場に出向き、各地域へ学習テーマを与えてもらいたい。【人文】</p>	今までもそういう要請に応じてきていますが、今後はより積極的に取組んでいくつもりです。
	<p>展示公開や教育普及については、教科書に対応した展示にするとよい。【人文】</p>	常設展示の更新や子ども向け講座などでは、学習指導要領を参考にしていきます。
第4章 5	<p>学芸員を新規採用した場合、流れが途切れる怖れがある。そこをつなぐために、学校の教員を「一本釣り」することを検討してはどうか。【自然・人文】</p>	学芸員の退職と採用においては、業務が途切れないようにして参ります。なお、専門研究員は、地元の教諭OBの中から適任者を確保しています。
第5章	<p>計画の実行には財源確保が重要。国や県、民間等からの費用を獲得するべきである。【自然・美術】</p>	より一層の財源確保に努めていきます。
その他	<p>飯田の学びと文化は、たいへん優れている。しかし、美博に限らずいろいろな学習文化活動には、関心を持っている市民しか参加していない。関心の少ない人々に参加してもらおうという意識を忘れないで工夫して行ってほしい。【協議会】</p>	同様の問題意識を持っていますので、今後の事業活動を展開するなかで、意識していきます。

飯田市美術博物館がめざすもの

飯田は、日本画の巨匠・菱田春草と、日本の博物館の父・田中芳男の生誕地です。

そして、なにより伊那谷は豊かな自然と芸術・歴史・文化が息づく地域です。

飯田市美術博物館は、そうした地にふさわしい施設として、市民の皆さんとの協働を図りつつ、

〈調べ〉〈学び〉〈蓄え〉〈交流〉の場となることをめざしています。

飯田市美術博物館の基本テーマは、「伊那谷の自然と文化」・「自然と人間とのフュージョン(融合)」です。

明日の飯田市(伊那谷)を心豊かで希望に満ちた地域とするためには、

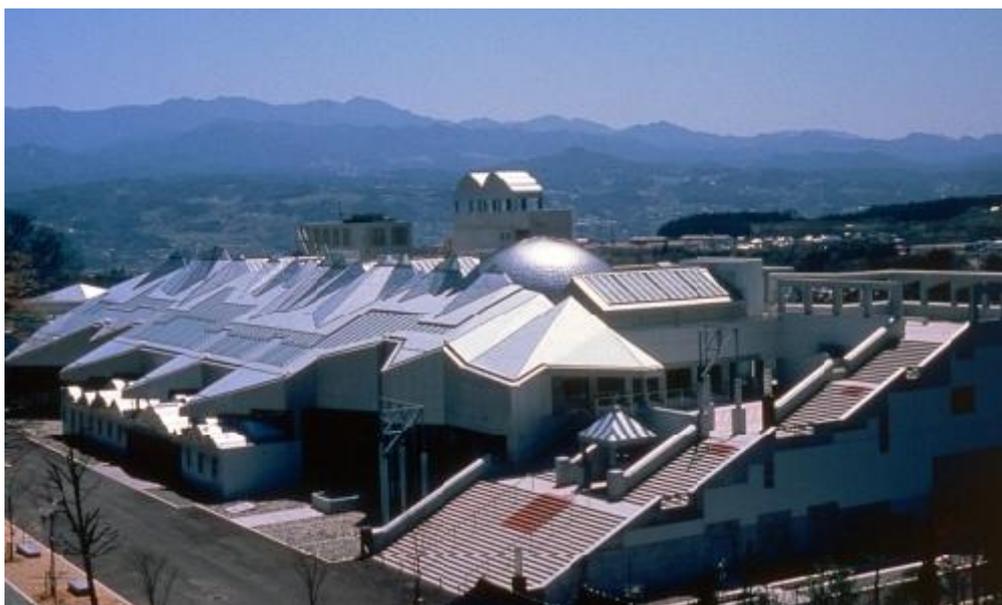
ふるさとの自然や歴史・文化を深く理解していくことが大切です。

子どもから大人までが世代を超えて交流し、地域を学ぶとともに、新しい価値を創出して広く情報を発信すること、

その一方で、自然と文化遺産の特質を明らかにし、将来に守り伝えていくことが重要です。

そうした役割を担うことをめざして、これからも活動を進めていきます。

平成 19 年(2007)制定



地を離れて人なく 人離れて事なし

故に人事を論ぜんと欲せば

先ず地理を見よ

吉田松陰『幽囚録』